



令和5年度 九州大学病院  
きらめきプロジェクト

# 報告書



令和6年3月

## 令和5年度 報告書 目次

• ごあいさつ .....	1
• プロジェクト概要	
1. 九州大学病院きらめきプロジェクトの概要 .....	2
2. 今年度のきらめきプロジェクトを振り返って .....	4
3. きらめき遠望 .....	6
4. きらめきプロジェクト構成 .....	7
• 実施状況	
1. ジェンダー学講義 .....	9
2. 性差医学入門講義 .....	11
3. 令和5年度学生交流会 .....	12
4. 令和5年度講演会 .....	14
5. 令和5年度スタッフ発表会 .....	16
6. 学内外での活動 .....	37
7. 情報発信 .....	39
8. 学習プログラム .....	45
9. スタッフミーティング議事録 .....	46
10. 令和5年度秋/令和6年度 採用募集要項 .....	51

編集後記





## ごあいさつ

九州大学病院  
臨床教育研修センター  
センター長 新納 宏昭

本プロジェクトは、平成 19 年に文部科学省大学改革推進事業として発足し、平成 22 年度より九州大学病院独自予算にて「きらめきプロジェクトキャリア支援センター」として引き継がれました。

令和元年 11 月 1 日からは、このシステムの必要性があることが認識され、恒常的な組織として本院臨床教育研修センターに組み入れられ、活動を続けております。

本プロジェクトは、出産・育児・介護・自身の病気等の為、離職を余儀なくされる医師や歯科医師が、性別を問わず、能力を十分に発揮できるよう、下記のような取り組みを行っています。

### きらめきプロジェクト事業内容

- 1) 常勤復帰を前提としたスキル継続のための専門性に応じた非常勤勤務制度  
(専門の外来勤務・検査業務)
- 2) 定期開催のスタッフミーティングによるスタッフの交流
- 3) 講演会・学生交流会・スタッフ発表会などによる啓発と周知活動
- 4) スタッフの教育学習支援のため、本プロジェクト主催の講演会等の動画配信
- 5) ホームページ・きらめき通信(隔月発行)・報告書(年 1 回発行)による情報発信
- 6) 医学部・歯学部生に対する性差医学や医療人としてのプロフェッション教育
- 7) 他大学・基幹病院・近隣の医療機関との連携
- 8) 福岡県医師会・歯科医師会・企業などの支援組織との連携

きらめきプロジェクトは、加藤聖子先生を中心に、医師・歯科医師が隔たりなく診療科の垣根を越えて明るく元気に支えあって活動をしています。

昨年 5 月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが 5 類感染症に移行されました。これからもさまざまな状況に柔軟に対応しながら、本プロジェクトがより大きく発展し、広く浸透するよう引き続き努力してまいります。

皆様には今後とも更なるお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

# プロジェクト概要



## 1. 九州大学病院きらめきプロジェクトの概要

九州大学病院臨床教育研修センター

きらめきプロジェクトプログラム責任者 加藤 聖子

令和2年から続いていた新型コロナウイルス感染症も令和5年が始まって間もなく、5月8日より5類感染症になりました。病院内ではマスク着用が求められていますが、行動制限もなくなり、多くの授業が対面となり、大学キャンパスにもようやく活気が戻ってまいりました。このような状況の中、きらめきプロジェクトも感染対策をしながらですが、授業や講演会など通常の活動を対面で行うことができるようになりました。

令和元年11月からは九州大学病院臨床教育研修センターが、キャリア継続研修という意味を含めて、きらめきプロジェクトを包含することになり、令和5年度もセンター長新納宏昭先生の体制下で行いました。メンバーとしては、昨年度と同様、顧問の樗木晶子先生（福岡歯科大学医科歯科総合病院健診センター長）、プロジェクト責任者を加藤聖子（医学研究院生殖病態生理学）が担当し、副プロジェクト責任者を落合正行先生（医学研究院周産期・小児医療学）、宮田潤子先生（医学研究院保健学部門看護学分野 講師）、清水真弓先生（口腔画像診断科 講師）、大山順子先生（口腔顎顔面外科 講師）、永吉絹子先生（臨床・腫瘍外科 助教）にお願いしています。

今年度のきらめき所属者数は延べ22名（医師15名・歯科医師7名）でした。昨年度に比べ医師は3人減少していますが、歯科医師が4名増加しました。これにより、立ち上げ（H19）から今年度までに所属した人数174名（医師123名・歯科医師51名）となりました。また、現在男性医師1名も所属していただいています。きらめきは、女性だけではなく男性医療人も支援するという目的があります。今後も男性医師・歯科医師への周知していきたいと思えます。

今年度の授業は対面で、医学部ジェンダー学講義（5月8日 担当：樗木晶子先生、加藤聖子）、性差医学入門講義（5月9日 担当：九州大学病院乳腺外科 久保真先生、宮田潤子先生）、歯学部ジェンダー学講義（11月13日 担当：清水真弓先生）を行いました。

また5月8日のジェンダー学の2時限目と3時限目の講義の間の昼休みの時間に、コロナ感染症で行動制限があっていた期間中は中止していましたが福岡県医師会との共催による「医学部学生交流会」も開催しました。常務理事の戸次鎮史先生が講演してくださいました。また、10月23日には歯学部学生交流会（担当：鳥谷歯科医院 桑鶴利香先生）を開催しました。女子学生だけでなく男子学生もこの学生交

流会に参加しますので、学生の中から、男女共同参画について興味を持ってもらうには大変良い企画だと思います。

10月4日にはきらめき講演会を令和4年10月に新しくなった医学図書館1階アクティブラーニングスペースで開催いたしました。今年度は今、国も力を入れている「男性育休」をテーマにして、長崎大学病院 心臓血管外科 教授 三浦 崇先生をお迎えし、「男性の育児参加：長崎大学心臓血管外科における育休取得のこころみ」のタイトルでお話ししていただきました。長崎大学では2019年から男性育休制度をスタートさせており、三浦先生は、勤務されている職場全体での「男性も一緒に子育てをすること」への調整や実際の取組みを、ご自身が育休を取得されたご経験や同じ職場の方々のお話を交えながらわかりやすく講演されました。男性育休取得を推進するためには、上司と同僚の理解、タスクシフト・タスクシェアの推進、そして何より、男性が育休を取るのは当たり前だという意識を持つことであると述べられました。九大病院ではまだまだそういう環境にはなく大変勉強になりました。

ご講演に続いて、三浦先生と夫婦2組を含む子育て真っ最中の現役医師の先生方6名による意見交換が行われました。子育て・仕事・家庭について、うれしいこと、楽しいこと、苦労していること等、いろいろなお話を聞くことができました。

月に1回のスタッフミーティングは今年も ZOOM による遠隔で、自己紹介・近況報告・事務連絡を行いました。3月には、1年の総まとめとしてスタッフ発表会を開きました。

私がこのきらめきプロジェクトの活動を担当させていただいて4年目に入ります。「きらめき所属期間中の臨床経験をもとに、各分野の専門医が取得できました」という報告も複数いただいています。今後もこの流れが続くように、時代に即した男女共同参画を目指していきたいと思っております。皆様のご協力・ご支援よろしくお願い申し上げます。

## 2. 今年度のきらめきプロジェクトを振り返って

九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト

副プログラム責任者 落合 正行

次年度より医師の働き方改革が始まります。今年度は準備期間として、様々な業務研修や、ビーコンを用いた労務管理などが行われました。また社会生活においても DEI と呼ばれる認識が広がりつつあります。DEI とは多様性 (diversity)、公正性 (equity)、包括性 (inclusion) の頭文字であり、男女共同参画や働き方改革を含めた社会生活の革新となる概念です。

きらめきプロジェクトは、それぞれの医療者の境遇に合わせた勤務のあり方を考え、それぞれのキャリアアップに結び付け、そして地域や世界に貢献できることを目標としています。どうでしょうか？きらめきプロジェクトの先見性をご理解いただけましたでしょうか？

全ての医療者と地域と社会のために、今後ともきらめきプロジェクトへのご理解とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト

副プログラム責任者 宮田 潤子

いよいよ4月より働き方改革が本格的に施行されます。これまで、きらめきプロジェクトの活動を通して、育児や介護、自身の疾病等とキャリアの両立について考えてまいりました。しかしながら、次年度からは、医師全体の生活とキャリアとの歯車が大きく変化する時代が始まるのではないかと考えます。この大きな変革の波の中で、育児や介護などを抱えた医師の働き方もどのような影響を受けるのか、今後注視していかなければならない問題だと考えています。過去には、ハンディを抱えた一部の医師の問題と思われがちであったワーク・ライフ・バランスの問題が全ての医師が直面する問題となっていくように感じるとともに、本来はそうであるべきなのだろうとも思います。

現在、日本小児外科学会のワーク・ライフ・バランス検討委員を務めており、「小児」と「外科」という面を兼ね備えた診療科が働き方改革という波の中を渡っていくために、委員会としてどんなお手伝いができるのか、ということを探求しています。きらめきプロジェクトでの活動と併せて、微力ながらお役に立てるように尽力したいと思っております。

九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト

副プログラム責任者 永吉 絹子

2023年10月のきらめきプロジェクト講演会に参加しました。この会では、長崎大学病院心臓血管外科の教授である三浦崇先生から、男性の育児参加について講演をいただきました。さらに、産婦人科医として活躍する2組のご夫婦と、育児休暇を取得した経験がある2名の男性医師も参加され、体験談や問題点について議論を行いました。会場となった医学図書館のアクティブラーニングルームは、非常に開放的な空間であり、参加しやすい雰囲気だったと感じます。育児や家事と仕事の両立は、男女共に共有すべき課題であるという認識が浸透しつつあることが感じられました。ただ、残念ながら、この講演には本学の男性教授が一人も参加されていなかったため、男性医師がより積極的に参加しやすい講演会とすることを次回の検討事項としたいと考えています。

## 九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト

副プログラム責任者 清水 真弓

歯学部 2 年生を対象の歯学総論 2 の一枠として、「歯科医師としてのキャリアパスと男女共同参画」のタイトルで TBL を行いました。前々週に同様の内容を、「きらめきプロジェクト歯学部学生交流会」として、鳥谷歯科医院 桑鶴利香先生に講演していただきました。

(大山順子先生の文章を参照ください。) 学生の皆さんにはその内容を大まかに理解した上で、自分自身と自分のパートナーとのライフプラン、家事分担について考えてもらいました。どのような歯科医を目指すのか、家事や育児をどう分担するのかなどについて初めて考えたという学生が多く、早くからそのような機会が与えられることは意味のあることだと感じています。また、グループでのディスカッションにより、自分とは全く違った他者の意見が聞けることも新鮮だったようです。女子学生は家事も育児も自分が中心で担うべきだと考える傾向にあり、女子学生自身の無意識のバイアスにも気付くことができた機会だったと思います。授業後のレポートで、きらめきプロジェクトの存在が女子学生にはもちろん、男子学生にも安心感を与えていることがわかりました。

## 九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト

副プログラム責任者 大山 順子

「令和 5 年度きらめきプロジェクト歯学部学生交流会」は 10 月 23 日 (月) に昨年に引き続き、きらめきプロジェクト OG の鳥谷歯科医院 桑鶴利香先生にご講演をお願いし、久しぶりに対面で開催いたしました。

桑鶴先生は九州大学歯学部卒業後の大学院時代の研究生活、一時期はきらめきプロジェクトにも所属されながらの教員生活、大学退職後の勤務医生活と、結婚・妊娠・出産・育児のワークライフバランスをどのように考え、実践してきたかをお話しくれました。そしてお子様の成長や歯科医師としても今尚さらに新しい分野に目を向けて充実していることも熱くお話ししてくださいました。

歯学部 2 年生の歯学総論 2 の一枠として開催したことで、まだ大学卒業後の人生について考える機会が少なかった学生には大変刺激となった様子で、ご講演後には具体的な質問が多数ありました。

男女共同参画という面でも医科に一步も二歩も遅れをとっていると思われる歯科界ですが、きらめきプロジェクトの OG でもある桑鶴先生はこれからの歯科界を担う学生に新しい視点と勇気、男女共同参画を考える機会を提供していただき、この後の男女共同参画の TBL につながる貴重な時間となりました。

### 3. きらめき遠望



きらめきプロジェクト顧問

福岡歯科大学医科歯科総合病院 健診センター長

福岡看護大学 学長

樗木 晶子

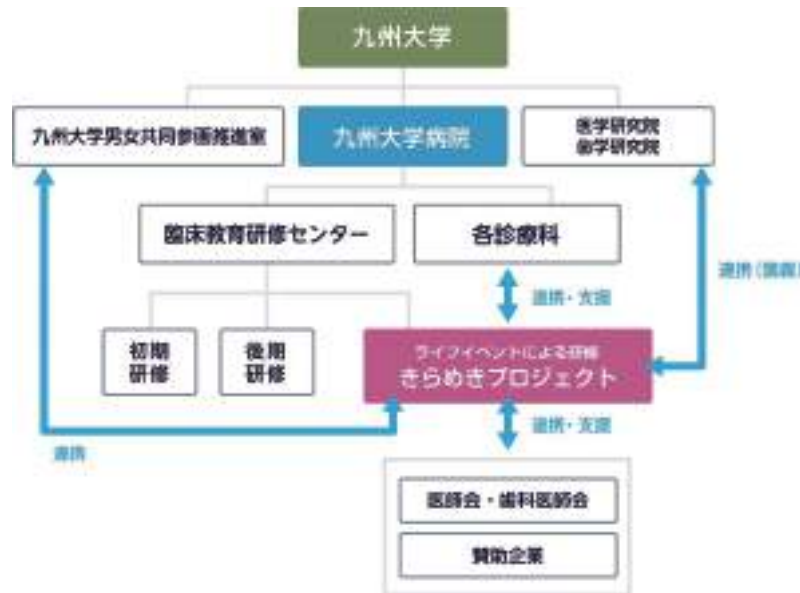
2024年新年は、大変な幕開けでした。家族揃って新年を祝っている最中の地震とそれに絡んだ飛行機事故は、私達の社会に大きなインパクトを与えました。被災された方々の悲しみや、このような不条理に対する怒りなど、如何許りかと思えます。福岡歯科大学医科歯科総合病院からも歯科チームが被災地で1週間支援してきましたが、厳しい状況であったことが報告されました。災害時のジェンダー格差なども取り上げられていますが、交通が寸断された僻地での災害ほど女性やマイノリティーに対する配慮まで追いつかないのが現状のようです。防災の領域でも女性リーダーがダイバーシティの要になってくるかと思えます。男女共同参画という言葉では包含できない問題も多く指摘され、ダイバーシティという概念が広く浸透してきました。東洋医学や看護の基本理念は、人を丸ごとのファジーな総体として把握し、病気だけに焦点を絞ることなく心身を治癒に導こうとするもので、そこには、画一化されない大らかな概念があるように思います。

さて、小学校の時、「人の性は男女の2つに分かれ、46本の染色体のうち2本の性染色体が、XX(女)か、XY(男)かで性が決まる」と習いました。近年、社会的に性も多様化し教育現場でもいろいろな状況に遭遇することが増えてきました。最近読んだ本の中に、興味深い記事を見つけたので紹介します\*。それは、マイクロキメリズムという現象で妊娠中に胎盤を介して胎児と母親の間で双方向に細胞の移動が起こり、胎児が男児の場合、母親に男児由来XY細胞(男性型細胞)が、男児には母親由来XX細胞(女性型細胞)が定着しうることが解ってきたそうです。個人を形成している全ての細胞が、男でXY、女でXX細胞ではなく、神経細胞の性も一見正常人ですらモザイク状であり混在しているということです。さらに、加齢とともに男性では46,XY染色体がY染色体を失い45,X染色体になり、Y染色体を失ってゆくほど死亡率やアルツハイマー発症率が高くなるというエビデンスが得られているとのこと。このような科学的根拠が明らかになると人の性においてすら、基から2つに分けるべきものではなく、「人は相対的に女性型細胞が多い人と男性型細胞が多い人の間に、連続的スペクトラムとして存在する」と考えると、世の中、何の問題もおこらない様に思えます。社会的に唱えられているダイバーシティに科学的根拠が裏打ちされ、私の頭の中でスッキリと整理され、ストーンと収まりました。ちなみに女1人と男2人を産んだ私の細胞の中には神経細胞を含めて、かなり多くの男児由来XY細胞(男性型細胞)があることは間違いのないと思われます。

\*深見真紀. ポリモルフィア 7; 8-11: 2022

## 4. きらめきプロジェクト構成

### きらめきプロジェクト組織図



### スタッフ紹介

#### 運営スタッフ

顧問	樗木 晶子	福岡歯科大学医科歯科総合病院健診センター長、専門：循環器内科
プログラム責任者	加藤 聖子	医学研究院 生殖病態生理学 教授
副プログラム責任者	落合 正行	医学研究院 周産期・小児医療学 准教授
副プログラム責任者	宮田 潤子	医学研究院保健学部門 講師、専門：小児外科
副プログラム責任者	永吉 絹子	消化管外科 (I) 助教
副プログラム責任者	清水 真弓	口腔画像診断科 講師
副プログラム責任者	大山 順子	顔面口腔外科 講師

所属スタッフ（令和5年度に所属したメンバー）

医師 15 名

第二内科	北村 環	月・木	5h (10:00~16:00)
第二内科	大和 いくみ	月・金	3h (9:00~12:00)
第三内科	馬越 真希	木	4h (9:00~14:00)
第三内科	下川 藍	水	3h (10:00~14:00)
第三内科	平田 由起	火	3h (10:00~14:00)
第三内科	福元 多鶴	火・水	6h (9:00~16:00)
心療内科	西原 智恵	火・木	4h (13:00~17:00)
産科婦人科	横田 奈津子	木	5h (9:00~15:00)
小児科	安部 希	月・木	6h (9:00~16:00)
皮膚科	大野 麻衣子	月・火・金	4h (8:30~12:30)
皮膚科	膳所 菜保子	月・水・木	4h (8:30~12:30)
泌尿器科	牧 知子	月・水	4h (13:00~17:00)
眼科	橋本 左和子	木	6h (9:00~16:00)
臨床教育研修センター	緒方 久修	木	4h (13:15~17:15)
別府病院 内科	森 麻里母	月・火・水	6h (9:30~16:30)

歯科医師 7 名

歯内治療科	深見 真由紀	火・金	5h (10:00~16:00)
顔面口腔外科	泉谷 真理子	水	6h (10:00~17:00)
顔面口腔外科	竹下 祐香里	月・木	6h (9:00~16:00)
顔面口腔外科	吉濱 るみ	火・水	6h (9:00~16:00)
歯科麻酔科	太田 百合子	月・火・木	4h (8:00~12:00)
高齢者歯科・全身管理歯科	桐石 祥果	月・金	5h (10:00~16:00)
高齢者歯科・全身管理歯科	實松 愛華	木・金	5h (9:00~15:00)

事務局スタッフ

事務補佐員	西 元子		
-------	------	--	--

# 実施状況

## 1. ジェンダー学講義

### 医学部医学科・生命科学科 ジェンダー学講義

医学部医学科・生命科学科 2 年生を対象に、きらめきプロジェクト責任者である加藤聖子先生と顧問である樗木晶子先生が、それぞれの実体験や専門の観点よりキャリア・ジェンダーに関する講義を行いました。

対象：医学部医学科・生命科学科 2 年生 121 名  
日時：令和 5 年 5 月 8 日（月）2、3 時限目  
講師：臨床教育研修センターきらめきプロジェクト  
プログラム責任者 加藤 聖子 先生  
顧問 樗木 晶子 先生



加藤 聖子先生



樗木 晶子先生

#### 学生の感想（抜粋）

- \* これからの医師に求められる素質や考え方について考えるいい機会になりました。
- \* 過酷な労働環境の下でもなお質の高い医療を提供しようと努めてきたこれまでの医師たちは素晴らしいと感じた。医師は社会的責任を伴う職業であるので、より良い医師になれるよう励みたい。
- \* 育児支援や出産後の復職支援、様々な情報の提供などによって、性別関係無く全ての医師が働きやすく質の高い医療を提供できるような環境になってほしいと願う。
- \* 女性もプロの自覚を持ち働き続けるという意識をもたなければならない。
- \* 人は、いる場所によって病気やワクチンの理解度や意識が変わってくると思うので、自分が学校で学んだことをいろんな人に繋げ、広げていきたい。
- \* 今のうちにある程度の目標とやりたいことを頭の中に置きながら勉強するべきという考えを聞き自分の目標を常に探しながら勉強をしていこうと思いました。
- \* 女性の一生と、その間に経験するかもしれない様々な病気やトラブルについて学ぶことができました。特に子宮頸がんについては予防接種や早期発見など様々な対策があると知ることができたので、身近な人が子宮頸がんを苦しむことのないよう男性側も色々なことを知っておくべきであると感じました。
- \* 意識を変えるのはなかなか難しいですが、多くの若者が病気や予防の深刻さについて知るべきだと考えます。
- \* 性別に関係なく医療に従事するためには相互に理解し助け合うことが大切だとわかった。
- \* 理解がある人“も”いる、というのは不十分で、皆が周囲に理解を示す雰囲気ができればいいと思う。



## 歯学部 歯学総論 キャリア・ジェンダーに関する講義

歯学部2年生を対象に、きらめきプロジェクトの副プログラム責任者であり、歯科部門統括責任者である清水真弓先生が、「歯科医師としてのキャリアパスと男女共同参画」をテーマに講義を行いました。

講義終了後、学生たちは自身の人生設計についてグループ討論を行いました。

対象：歯学部2年生 53名

日時：令和5年11月13日（月）3,4時限目

講師：九州大学病院 口腔画像診断科 講師

きらめきプロジェクト副プログラム責任者 清水 真弓 先生



### 学生の感想（抜粋）

- \* 多くの人とコミュニケーションをとり、世の中の「普通」「当たり前」に疑いを持つことを続けなければいけません。
- \* 国家試験の合格を目標とするのではなく、その先の、どんな症例にも柔軟に対応できるような優秀な歯科医師となることを目標として日ごろの学習に励んでいく。
- \* 自分にはできることはない、自分は男だから関係ないことだと考えるのではなく、それぞれが当事者意識をもって活動に取り組むことが大切である。そうして男女共同参画の考えや現状が伝わることによって、今の社会はどうなっているのかを知る人が増え、よりよい社会が出来るのではないかと考える。
- \* 歯科医師という職業には様々な働き方の選択肢があり、簡単に諦めなくていいということを感じておきたいと強く感じた。
- \* “結婚育児をとるか、キャリアを取るか”どちらかを諦めるのではなくどうやったら両立できるのかを考えていきたいと思った。
- \* 自分のキャリアのために必死で勉強に励み歯科のプロフェッショナルになれるように頑張りたいと思います。
- \* 同級生のみんながどんな未来を描いているのかを知って、いろんな人の価値観があって面白く、こんな生き方もあるのかと学ぶことができました。
- \* 周りに流されたり、強い意志もなく選んだりせず、今のうちから自分にとってどのようなキャリアライフが理想なのか考えていきたいと思う。
- \* 職場の女性だけではなく職場の男性の人にも働きやすい環境を作れるように意識して生活したいと思いました。
- \* 女性が育児をしやすい環境を作るのではなく、夫婦が育児をしやすい環境を作るという考え方が大切なのだと気づくことができた。

## 2. 性差医学入門講義

本プログラム副プログラム責任者 宮田 潤子 先生、九州大学病院乳腺外科 診療科長 久保 真 先生が、医学部医学科・生命科学科2年生を対象に性差医学入門講義を行いました。

対象：医学部医学科・生命科学科2年生 27名

日時・講師：

令和5年5月9日(火)3時限目

九州大学大学院医学研究院保健学部門 講師

きらめきプロジェクト副プログラム責任者

宮田 潤子 先生

令和5年5月9日(火)4時限目

九州大学病院乳腺外科 診療科長 久保 真 先生



宮田 潤子先生



久保 真先生

性差・性差医療について、宮田先生は小児期の病気による性の問題をいくつかの症例を交えながらお話しされました。また、久保先生はがんと遺伝医療の観点から具体的なデータ等を示しながらお話しされました。

学生は性差・性差医療について学び、その必要性和重要性に気づくことができたようです。更には、病気による性の問題や性差と病気との関係を教わり、自分なりに考えるよい機会となりました。

### 学生の感想(抜粋)

- \*一つの診療科だけではなくチーム医療が必要であり、多診療科間の連携が大切であると思った。
- \*患者に親身に寄り添い、見守るという立場を徹底する。
- \*患者さんの悩みを共有して、ともに解決していきたい。
- \*患者さんのセクシャルアイデンティティにおける自己肯定感や幸福感を与えていけるようにサポートしていきたい。
- \*患者さん当人の話をよく聞き、その意思を尊重していくことが大切である。
- \*病気だから周りや違っているとネガティブになってしまう時、それがまた一つの自分らしさであると考えられるような環境を作ってあげられるのも医師の役割の一部であると思いました。
- \*疾患における性差が明らかになることで、定期健診・早期発見につながる。性差医療は疾患の予防につながり、健康寿命の延伸につながるため、超高齢社会である日本にとって重要なものであると考える。
- \*性差だけでなく、患者さん一人一人に合う治療の提供をすることが医療人の使命なのだと感じました。
- \*性差医療の重要性を学びました。また、ジェンダーの地位と健康に関わるような病気も性差医療に含まれることに対して驚きました。
- \*性差医療は性別や個人を尊重し、患者さん一人ひとりに寄り添った医療を提供することを可能にすると思う。これからの時代では、性差医療のニーズはますます高くなると思う。



### 3. 令和5年度学生交流会

学生のキャリア形成における意識啓発やロールモデルの提供を目的として、医学部、歯学部それぞれで学生交流会を毎年開催しています。

#### 医学部学生交流会

医学部学生交流会では福岡県医師会からお二人の先輩医師の先生方をお招きし、会場いっぱいに参加した学生に向けて、先輩医師のお立場からお話をいただきました。

この日は開催時間に合わせて、美味しいランチをいただきながらの会となりました。

対象：九州大学医学部 学生

日時：令和5年5月8日（月）12:00～12:55

会場：九州大学病院キャンパス

ウエストウィング棟2階 臨床小講堂2

講師：福岡県医師会 副会長 一宮 仁 先生

常任理事 戸次 鎮史 先生



一宮 仁 先生



戸次 鎮史 先生

今回は、本学医学部学生を対象に事前アンケートを実施しました。ご講演では、そのアンケート結果や多くの資料を示しながら、とても分かりやすく、貴重なお話をしてくださいました。その内容はとても興味深く、初めて聞くことや改めて気づかされることが数多くありました。

参加者からは、「先生の講演、刺激を受けました！」「私達の世代以降では男女の役割分担意識が改善されているといいと思います」「今後も同じような交流会の開催を希望します」などの感想が寄せられました。

今回の交流会は、参加した本学学生にとって大きな刺激となり、将来を考えるよいきっかけとなったようです。



## 歯学部学生交流会

歯学部学生交流会では、きらめきプロジェクト OG で鳥谷歯科医院 桑鶴 利香先生、九州大学歯学部同窓会会長 久保 秀郎先生をお迎えしました。

対象：九州大学歯学部 2 年生

日時：令和 5 年 10 月 23 日（月）3,4 時限目

講師：鳥谷歯科医院（きらめき OG） 桑鶴 利香 先生

桑鶴先生は将来歯科医師として社会人生活をスタートする学生たちに、「歯科医師として働くことー未来予想図を描くには?ー」をテーマにお話ししてくださいました。

歯科医師としてのキャリアプラン、結婚、出産・育児などのライフプラン、勤務医(大学病院、診療所)や開業医のマネープランの 3 つの視点から、学生たちが自分の将来を考える上で役に立つ情報満載のお話でした。

また、本交流会の冒頭に、九州大学歯学部同窓会 会長の久保 秀郎先生が、先輩歯科医師のお立場から、学生たちの将来を見据えた励ましのお言葉を贈ってくださいました。



桑鶴 利香 先生



久保 秀郎 先生

### 学生の感想（抜粋）

- \* 仕事に対する価値観、やりがいの見だし方や仕事と育児の両立の大変さ、歯科医師のお金の話など生きていくために必要で、かつ実際に経験しないと分からないような知識が多く非常に勉強になった。
- \* 同じ仕事をするにしても、人生の大半を占めるため、せつかくなら苦しみながら仕事をするのではなく、自分にとって幸せで有意義な時間にしたいなど考えるようになった。
- \* 女性だからという性別を理由にして、歯科医師としての目標も家族を持つという夢も諦めたくないと思った。
- \* まずは一人前の歯科医師になることが大切。そのためには知識や技術をしっかり蓄え、一步一步歩んでいきたい。



## 4. 令和 5 年度講演会

令和 5 年度講演会は、講師に長崎大学病院心臓血管外科 教授 三浦 崇先生をお迎えして、九州大学病院キャンパス 医学図書館 1 階アクティブラーニングスペースで開催しました。

本学医学図書館は令和 4 年にリニューアルオープンしました。会場のアクティブラーニングスペースは快適で開放感のある空間であり、そこで開催した今回の講演会は和やかな雰囲気の中で進行されました。

対 象：九州大学教職員・医療従事者

日 時：令和 5 年 10 月 4 日（水）18:00～19:30

会 場：九州大学病院キャンパス 医学図書館  
1 階アクティブラーニングスペース

講 師：長崎大学病院 心臓血管外科 教授 三浦 崇先生



三浦 崇 先生

三浦先生は「男性の育児参加：長崎大学心臓血管外科における育休取得のこころみ」をテーマに、長崎大学心臓血管外科における男性の育休取得を開始・促進するための取組みを中心にお話してくださいました。

ご自身が育休を取得された経験、実際に取得した方やご家族の感想などを交えて、とても分かりやすく興味深い内容でした。育休取得を促進させるためには、環境や意識を変えること、具体的な方法を作り上げることの重要性を強く感じました。

講演後には、子育て世代の現役医師の方々にお集まりいただき、育児・仕事・家庭について自由に意見を交わす場を設けました。ご夫婦 2 組を含むパネリスト 6 名の先生方からの子育て・仕事・家庭のうれしいこと、楽しいこと、苦労していること等の率直なご意見はとても共感を覚える内容でした。

今後も男性の育休取得が普通のこととなり、男女を問わず、すべての人が仕事をし、子育てをし、そしてそのキャリアを続けていくことができる社会になっていくことを目指して、活動して参ります。



## ●講演会の感想・コメント等

- \* 育児休業制度について、あまり知らなかったの  
で、これから社会にできる準備の1つとして調べよ  
うと思いました。
- \* 制度が整わない中にも関わらず、お話しされたみ  
なさんはそれぞれに工夫し風穴を開けられて、素  
晴らしいと思いました。
- \* 三浦先生のご講演をうけ、非常に感銘を受けまし  
た。外科医ひいては医者離れを防ぐための喫緊の  
課題と改めて感じ、この“社会の大きな流れ”に対  
応できない病院や医局に未来はないと強く感じまし  
た。是非とも病院の中核の方々には、目を背けずに向  
き合っていただきたいと思ひますし、本プロジェクト  
の皆様に期待しております。
- \* 自分にもできる働きかけとして、育休希望を出そう  
と、思ひました。
- \* 実際に育児に参加したスタッフの発言を聞くことが  
できて、よかった。
- \* 大変勉強になりました。夫に育休取得の相談をし  
てみようと思ひます。
- \* 耳が痛かったです。帰って妻に感謝して、今後は  
フェア感をもってがんばろうと思ひました。
- \* 男性の医師が育児休業を取れる環境作りをされて  
いることをこれからも幅広く伝えて欲しいと感じ  
ました。
- \* 育休取得について、男性サイドでのお話が聞けて  
大変良かったです。実際にご夫妻での働き方も  
きけて、とても参考になりました。
- \* とても興味深い内容でした。我が家は子供がまだ  
小さく、まだ手がかかるのですが、夫が育休を取  
得するのは、職場の都合上難しかったので、うら  
やましいなと思ひました。今後、男性の育休取得  
がスタンダードになってくるとよいと思ひます。
- \* 非常に参考になりました興味深い内容で、とても  
面白かったです。自分のキャリアを中断せずに、  
子育てと仕事の両立ができることはすばらしい  
です。
- \* とても貴重なご講演、誠にありがとうございました。  
時短勤務の際の仕事配分はどのような感じか、  
またお知らせいただけるとうれしひです。
- \* 子育てと仕事、キャリア継続の両立はなかなか  
難しいものと思ひていましたが、本人や周りの  
考え方を変えていき、両立可能となる方法を見  
つけて、実践されていることに感銘を受けまし  
た。
- \* もっとたくさんの方(特に頭の硬い方)に聞いて  
いただきたかったです。
- \* 今から自分の生活を見直していこうと思ひまし  
た。ありがとうございました。
- \* 男性の育児参加はとても大切だと思ひました。
- \* これから育休を取る医師が増えてくれればよい  
と思ひました。
- \* スタッフも子育て世代が増え、仕事との両立が  
大変だと思ひますが、管理職として両立しなが  
ら働きやすい環境づくりに今後も力を入れてい  
きたい。



## 5. 令和5年度スタッフ発表会

スタッフ一人一人が、きらめきプロジェクトにおける今年度の活動を報告するポスターを作成・掲示して、発表しました。きらめきプロジェクトで働くことの意義を自他ともに改めて確認することができ、今後の本プロジェクトの在り方を考える機会となりました。

また、男女共同参画に取り組むプロジェクトの活動が少しでも多くの方に伝わり、医療に携わる者が幸せに働き続けることで、患者様へのより良い医療の提供へと繋がるものと考えます。

日 時：令和6年3月6日（水）～8日（金）11:00～16:00

会 場：九州大学病院 外来診療棟2階ギャラリー

発表形式：ポスター形式

公開発表のため、一般の方を含めて誰でも参加可能。



### 【医師】

第二内科	北村 環
第二内科	大和 いくみ
第三内科	馬越 真希
第三内科	福元 多鶴
心療内科	西原 智恵
産科婦人科	横田 奈津子
小児科	安部 希
皮膚科	大野 麻衣子
皮膚科	膳所 菜保子
泌尿器科	牧 知子
眼科	橋本 左和子
臨床教育研修センター	緒方 久修
別府病院 内科	森 麻里母

### 【歯科医師】

顔面口腔外科	泉谷 真理子
顔面口腔外科	竹下 祐香里
顔面口腔外科	吉濱 るみ
歯科麻酔科	太田 百合子
高齢者歯科・全身管理歯科	桐石 祥果
高齢者歯科・全身管理歯科	實松 愛華

### 【事務局】

西 元子



# 令和5年度 きらめきプロジェクト活動報告

病態機能内科科学 糖尿病研究室 北村 環

## ★自己紹介

卒後18年目の内科系医師です。  
きらめきプロジェクトには長男出産後もお世話なり、第3子出産後、昨年度より再度所属しています。今年で3年目です。  
普段は、夫と長男、長女、次女の5人家族で毎日慌ただしくもにぎやかに毎日を送っています。

## ★家族構成

夫:会社員  
長男:7歳、小1  
長女:5歳、幼稚園の年長  
次女:3歳、市中病院の院内保育園

## ★勤務について

月:九州大学病院 糖尿病新患外来  
火:市中病院 糖尿病外来  
水:市中病院 糖尿病と甲状腺疾患の再来  
木:九州大学病院 糖尿病の再来  
(主に生体腎移植後で糖尿病を合併している方)

## ★1年間を振り返って

非常勤で勤務しながら、毎日3人の子供相手に奮闘する毎日です。常勤で勤務されている女医の先生方の話を聞くと、医師としてはもっと働くべきではないかと後ろめたさを感じることがあります。しかし、子供と向き合う時間もしっかり確保しておきたいという思いもあり、現在の勤務スタイルをとらせていただいています。まずは、診療をやめないこと、続けることが大事だという諸先生方の言葉を信じて、身勝手かもしれませんが、自分のペースで努力し、恩返ししていければと考えています。  
家庭では、今年も子供の急な発熱で何度も医局の先生方には大変ご迷惑をおかけしてしまいましたが、毎回快くサポートしていただき、本当に感謝しかありません。

## ★略歴・ライフイベント

平成18年～浜の町病院で初期研修医  
平成20年～聖マリア病院 糖尿病内分泌内科  
平成21年～九州中央病院 糖尿病内分泌内科  
平成23年 内科認定医取得  
平成24年～九州大学大学院入学  
平成25年 糖尿病内科専門医取得  
平成27年 結婚  
平成28年 第1子(長男) 出産  
平成29年 きらめきプロジェクト所属  
平成30年 第2子(長女) 出産  
令和 1年 九州中央病院に非常勤勤務  
令和 2年 第3子(次女) 出産  
令和 4年～ きらめきプロジェクト

## ★大学勤務日のタイムスケジュール

5:00～6:30 起床、子供の弁当や朝食準備  
7:00 子供を起こす、朝食、家事全般  
8:20 幼稚園バスへ送迎  
8:30 次女を院内保育園へ送迎し、勤務へ  
9:30～10:00 勤務開始  
15:30～16:00 勤務終了  
保育園と幼稚園(たまに学童)にお迎え  
17:20頃 帰宅、夕食準備  
18:30～ 夕食  
19:30～夫帰宅、子供のお風呂、家事全般  
21:00～24:00 子供の寝かしつけ、就寝  
(最近ほぼ子供と共に寝落ち)

## ★今後の目標

来年度も継続してもきらめきに所属させていただくことになりました。  
来年こそ、論文作成を進めることが目標です。



# 令和5年度 きらめきプロジェクト活動報告

## 高血圧内科 大和いくみ

### 自己紹介

卒後11年目の高血圧内科医師です。大学院在学中に長男・次男を出産しました。大学院4年間終了後も研究・診療を続け、学位、専門医を取得したいとの気持ちで、きらめきプロジェクトに応募しました。令和4年度から所属しており、今年度で2年になります。大学病院では高血圧内科医として診療し、外部では主に産業医として勤務しています。

### 家族構成

**夫:**会社員 家事全般こなせる。長男、次男ともにパトタッチ方式で各々6カ月間育休を取得。仕事がフルリモートのため、子供の緊急対応を主に担当している。

**長男:**4歳 ダンスと仮面ライダーが大好き。料理も好きで毎週土曜は朝食のホットケーキ作りを担当。新しい人や環境に馴染むのが早く、物怖じしない。

**次男:**2歳 イヤイヤ期突入。4歳の長男とはよく衝突もするが、基本的にお兄ちゃんが大好き。慎重派。

兄家族(姪:長男と同級生)が近所に住んでおり、休日とはよく一緒に遊ぶ。実家、義実家も車で30分の距離にあり、助けてもらうことも多い。

### 1日のスケジュール

6時30分 起床 朝食準備、洗濯物たたみ  
6時50分 全員朝食  
8時 出発→子供たちを保育園に  
9時 出勤  
17時 退勤→保育園お迎え  
(夫 自宅で食事準備)  
18時 帰宅・夕食  
(保育園の洗濯物・食器洗い)  
19時 お風呂  
20時~21時 子供就寝  
21~23時 家事的残り、資料作成や執筆活動



今年のわが家の一大イベント！沖縄旅行

### 経歴

2013年3月 佐賀大学卒業  
2013年4月~製鉄記念八幡病院(北九州)で初期研修  
2015年4月~同病院の循環器内科で後期研修  
2017年4月~門司掖済会病院の内科勤務  
2018年4月 大学院1年目  
兼九州大学病院 病棟医員  
2019年 大学院2年目 長男出産  
2021年 大学院4年目 次男出産  
2022年4月~きらめきプロジェクト

### 活動報告

診療:生活習慣病全般(高血圧・糖尿病・脂質異常症など)、慢性心不全・腎不全、妊娠高血圧など  
研究:職域集団における生活習慣病の危険因子の検討をテーマに、喫煙と高血圧発症との関連について調査

専門医:2016年 内科認定医取得  
2022年 循環器専門医取得  
2023年 高血圧専門医取得

### 勤務内容

月:AM 大学外来 PM 外勤①  
火:AM 外勤① PM 外勤②  
水:終日 外勤①  
木:フリー(研究日)  
金:AM 大学外来 PM 研究

外勤① 産業医勤務  
外勤② 市中病院心エコー検査

### 1年を振り返って&今後の目標

私の働き方は昨年と変わりありませんでしたが、子供の成長によって変化のある1年となりました。子供の睡眠が安定してきたため夜の時間を仕事の資料作りや執筆活動に充てられるようになり、勉強や研究時間の確保ができるようになりました。また、遠出やお泊りも家族でストレスなく出来るようになったことで、来年度は学会等の課外活動へも積極的に参加していきたいという気持ちが持てるようになりました。小さい子供の1年の成長は大きいと感じます。

自分のペースで研究を継続でき、就業と子育てとが無理なく両立出来ているのは、現在の働き方を認めてくださる研究室はじめ、きらめきプロジェクトの皆様のおかげです。大変感謝しております。

令和6年度もプロジェクトの参加を予定しております。引き続きお世話になります。

# 令和5年度 きらめきプロジェクト活動報告

内分泌代謝・糖尿病内科（第3内科） 馬越 真希

## ★自己紹介★

愛媛県松山市出身 専門：内分泌代謝内科  
2009年 愛媛大学 卒業（医師15年目）  
卒後1, 2年目 松山で初期研修  
3-5年目 松山で後期研修（糖尿病内科）  
6年目 島根大学大学院入学  
7年目 第1子出産（1年間休職）  
糖尿病専門医取得  
8,9年目 京都医療センター内分泌代謝内科  
骨粗鬆症学会認定医取得  
10年目 第2子出産（1年間休職）、学位取得  
内分泌学会専門医取得  
11年目 夫に伴い、九州大学へ  
糖尿病学会指導医取得  
13年目 日本学術振興会特別研究員RPD採用  
内分泌学会指導医取得

## ★研究活動★

機能性副腎腫瘍とそこから分泌されるステロイドホルモンの作用（特に骨代謝への影響）を臨床研究により検討しています。

[2023年度の業績]

論文（責任著者）

Nakao H, Yokomoto-Umakoshi M, Nakatani K, Umakoshi H, Ogata M, Fukumoto T, Kaneko H, Iwahashi N, Fujita M, Ogasawara T, Matsuda Y, Sakamoto R, Izumi Y, Bamba T, Ogawa Y.

Adrenal steroid metabolites and bone status in patients with adrenal incidentalomas and hypercortisolism.

EBioMedicine. 95:104733, 2023.

受賞

・日本骨代謝学会 優秀演題賞

研究助成

- ・科研費 若手研究
- ・上原記念生命科学財団 研究奨励金
- ・日本内分泌学会 研究助成(若手研究者による研究課題)

## ★家族構成★

夫：医師（九大勤務）  
長女：8歳（2年生）  
長男：5歳（保育園年長）

## ★タイムスケジュール★

- ・週1回 大学病院で外来（9時～13時）
- ・週1回 北九州で外勤（9時～16時）
- ・それ以外は大学で研究

5-6時頃 起床  
7時頃 出勤準備  
8時すぎ出発。  
長女を学校に送り出し、  
長男を保育園へ。  
9時頃 仕事開始  
17時頃 仕事終了。長男お迎えへ  
22時頃 子供たちと就寝

近くに頼れる親族がないため、夫と協力して家事・育児に励んでいます。



## ★5年間の活動を振り返って★

2019年度よりきらめきプロジェクトに所属しています。2021年度より日本学術振興会特別研究員RPDに採用され、研究活動がメインですが、主に外来業務の継続のため、きらめきでの5年目の活動を継続させていただきました。恵まれた研究環境のなかで活動できていること、専門医の維持・指導医の取得ができたことを大変感謝しています。5年間お世話になり、誠にありがとうございました。

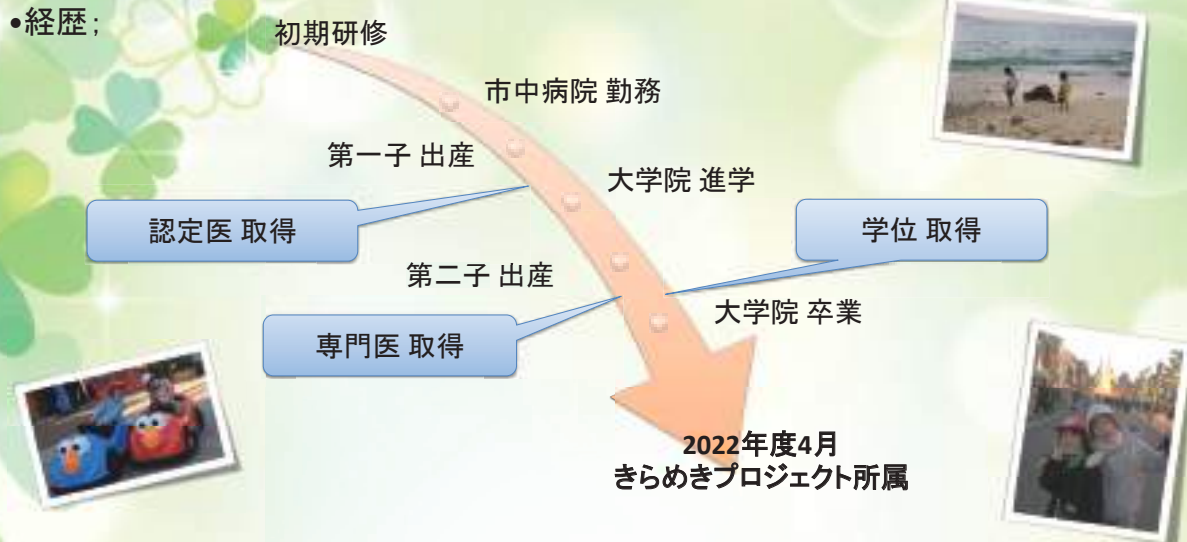
# 令和5年度 きらめきプロジェクト活動報告

きらめきプロジェクト 医師

## 自己紹介

•子供； 小学生2人

•経歴；



### きらめきプロジェクト所属にいたるまで

- 大学院卒業後も研究の継続を希望し、子どもとの生活を考え、非常勤で勤務することを選択しました。
- 臨床経験を積みながら、研究活動を継続するため、きらめきプロジェクト所属を申請しました。

### 今年度の活動

- 大学病院の非常勤医師として専門外来をさせていただくことで、多くの症例を経験させていただきました。
- 第二子出産後は在宅でも研究活動をし易い臨床研究が中心でしたが、臨床検体を用いた解析や細胞実験などの基礎研究にも着手し、研究スキルの向上とともに、研究の幅を広げることができました。
- 昨年度までは学会はWeb参加のみでしたが、今年度は数回、現地で参加することができ、研究活動へのよい刺激となりました。

### 生活を振り返って

- 成長とともに、学校であったこと、思ったことなど、色々な話をしてくるようになり、一人の人間としての成長しているのだなと実感しています。起床から登校まで、帰宅から就寝までの時間は、慌ただしく過ぎていきますが、子どもとゆっくり会話する時間が、日々の楽しみです。思った通りに仕事や研究を進められないことも多いですが、今しかない子どもと過ごせる時期を、大切にしたいと思っています。

### 最後に

- 様々な場面で、たくさんの方々にご協力、ご支援をいただきました。きらめきプロジェクトの先生・スタッフの方々、上司や周りの先生・スタッフの方々、男女共同参画推進室を始め大学職員の方々に、心より感謝を申し上げます。
- 今後、医療への貢献だけでなく、出産、育児にかかわらず、働き方、キャリア・スキルアップに思い悩んでいる方々に、自身の経験を生かし少しでも力になることで、ご恩を返していけたらと思っています。

## 「子育てと養育者の業務形態について」 令和5年度 きらめきプロジェクト活動報告 心療内科医師

卒後18年目の医師です。現在小学生の子供を2人育てています。  
5年目で心療内科に入局し、大学病院や一般病院で臨床経験を積みました。  
臨床研究(肥満研究)で医学博士を取得した後、一般病院で3年間緩和ケア内科として勤務。  
本年度、九州大学病院心療内科の医員となりましたが…

### 医員(病棟スタッフ)としての勤務

- ・病棟業務中心(研究時間はとれない)
- ・朝夕カンファレンスがあり、朝は子供より先に出て、帰日も遅くなる(育児に余裕がない)
- ・子が情緒不安定に…(学校や学童でトラブル)



### きらめきプロジェクト参加 令和5年 10月～

- ・週2日半日、学術研究員として勤務  
臨床研究に集中できる
- ・子供の登校時や帰宅後にケアができる
- ・子供が落ち着き、学校生活に適應

現在、肥満者における身体面と食行動や心理学的指標の関連についての臨床研究の従事しています。

### 九州大学病院における肥満外科手術チームの活動

外科診察

内分泌代謝・糖尿病内科

- 入院・二次性肥満の除外  
・低カロリー食  
・食事指導  
外来・6か月間の生活介入  
・インクレチン製剤等

心療内科  
術前評価  
(心理・行動面の評価)



腹腔鏡下スリーブ術

外科的長期フォロー

内科的長期フォロー

心療内科  
不調者への介入  
(メンタル不調・嘔吐など)

- ・月2回の多職種カンファレンス(外科、糖尿病内分泌内科、心療内科、栄養部)で情報共有
- ・当科の臨床研究(術前・3か月後・6か月後・12か月後・18か月後・24か月後の食行動・心理評価)

### 令和5年度のふりかえり

今回、私は、子供が小学校進学したことを機に、病棟の医員に復帰しました。そして、時間的制約のため子育てに余裕を持たず、同時に子供が心理的に不安定になるという経験をしました。自分の働き方を振り返り、現状では子供たちへのケアが優先されると考え、勤務形態見直しました。また、子育て中には夜勤や時間外勤務など従事困難な業務がある一方、日中の時間内に人並みにできる仕事もあり、研究に関しては自分で裁量権を持てる内容なら、継続するのではないかと感じました。

この度きらめきプロジェクト秋採用の門をたたき、大学での研究を続けていける道を用意していただいたことに心より感謝しております。研究中心の生活で日々の仕事と家庭の時間配分も変わるとともに、不適応気味だった子供が授業中に落ち着きが出たとのフィードバックも学校側からもらいました。子供のメンタル不調の原因は多くの要因が重なった結果と思いますが、養育者のケアの調整は重要となりうる、と改めて実感しています。

子供たちも、来年度小学校6年生・3年生になります。これまで仕事と子育ての両立を進めてこられたのは、職場の子育て環境のおかげと感じています。今後も家族の状況を見定めつつ、踏み進めて行きたいです。



## 令和5年度 きらめきプロジェクト活動報告

産科婦人科 医師

### 自己紹介

卒後17年目の産婦人科医師です。産婦人科の内分泌研究室に所属しています。大学院の後、令和4年度よりきらめきプロジェクトに参加させていただいております。家族は夫と子供3人です。

### 活動内容

①婦人科のヘルスケア外来を担当しています。

<ヘルスケア外来の主な対象>

- ・がんサバイバー
- ・リスク低減卵管卵巣摘出術(RRSO)施行後のHBOC女性
- ・月経関連疾患(無月経、過多月経、月経困難症、PMSなど)
- ・子宮内膜症、子宮腺筋症、子宮筋腫
- ・妊娠高血圧症候群および妊娠糖尿病の既往者のヘルスケア

がんサバイバー等の閉経患者には現在のホルモン補充療法の有無に関わらず将来の骨粗鬆症や動脈硬化の予防のための検査や指導を行っております。

近年保険収載されたRRSOに関して、RRSO後女性のヘルスケアにも注力しています。

②その他

学会発表や臨床研究にも取り組んでいます。只今、論文投稿中です。大学の診療日以外は、クリニックで勤務しています。

### きらめきプロジェクトに参加して

きらめきプロジェクト主催の講演会は毎度興味深く拝聴しています。他科の先生方や他職種の方々の活動を知る機会もあり、キャリア継続のモチベーションにつながっています。

臨床だけでなく、研究や学会活動の場を与えていただき、感謝しています。

きらめきプロジェクトへの参加をご理解いただいた医局の方々や、きらめきスタッフの方々、そして支えてくれる家族に感謝しております。

来年度も継続予定です。よろしくお願いいたします。

## 令和5年度きらめきプロジェクト活動報告

小児科 安部 希

### <自己紹介>

卒後12年目の小児科医です

2011年 山口大学医学部卒業

2013年 山口大学大学院医学系研究科小児科学講座入局

2015年 大学院入学

2016年 小児科専門医取得

結婚

2019年 長男出産・育休 福岡転居

2020年 山口大学へ復帰(週1宇部、月1下関へ通勤)

2021年 学位取得

次男出産・育休

2022年 きらめきプロジェクト所属

### <スケジュール>

月・木

九州大学病院

小児内分泌外来

(木は初診も)

第1・3水

下関の小児内分泌外来

### <家族構成>

夫: 他県の児童相談所勤務、こどもは3人は欲しい。

長男(4歳): 保育園年中。シャイボーイ。ウルトラマン好き。

次男(2歳): 保育園1歳クラス。パウパト好き。トイトレ終盤。

私の両親: 自宅近くに在住。70代。孫育の主戦力は父。

夫の両親: 北九州在住。80代。

義父の通院などには夫や夫のきょうだいが協力している。



家でも外でも  
たくさん一緒に  
遊べました♪



### <1年を振り返って>

小児科内分泌グループにお世話になっています。

きらめきは2年目で引き続き外来と初診を担当させていただいています。

復帰2年目となり昨年よりは育児をしながらの仕事にも慣れグループ内でのカンファレンスの内容にもついていけるようになってきたと思っています。来年度からはエコチルでほぼ常勤の働き方になります。当直はなく病棟で患者さんを持つことはないようですが、今と生活スタイルが変わることと新しい業務も増えるので、少し不安です。とは言ってもきらめきプロジェクトのおかげで育児に比重を置きつつも仕事を続けることができたので、急に常勤に復帰! などよりは気持ちが楽です。

私は九大出身ではないので、地元ではあるものの、知り合いの先生がほとんどいない中でも、きらめきプロジェクトの活動報告やイベントで他の先生方がどんな働き方をしているのかを知る機会がありとても心強く思いました。今後、結婚や出産を機に九州大学に来られる先生にもぜひ勧めたい制度です。

### <今後の目標>

- ・常勤になるので生活に慣れる、体を壊さない
- ・内分泌代謝(小児科)専門医取得のための準備
- 常勤勤務を3年がんばる
- 学会発表やできれば論文も
- ・第3子?

## 令和5年度 きらめきプロジェクト活動報告

皮膚科 医師

### 自己紹介

卒後14年目の皮膚科医師です。  
医師の夫(九大勤務)と子供1人(1歳8ヶ月)とビーグル犬(2歳)の3人+1匹家族です。  
今年度よりきらめきプロジェクトに所蔵し、九州大学での外来勤務と、市中病院での勤務を行なっています。  
慣れない第1子の育児と親族のヘルプが全くない状況での職場復帰に不安を感じたため、きらめきプロジェクトに所属させていただきました。

### 経歴

2009年 佐賀大学卒業  
2009-2011年 初期研修  
2011年 九州大学皮膚科学教室入局  
2011-2012年 市中病院勤務  
2013-2014年 九州大学勤務  
2015年 福岡大学形成外科勤務  
2016-2020年 九州大学勤務  
(病棟医長2年、副病棟医長2年)  
2017年 皮膚科専門医取得  
2022年 長女出産・育休  
2023年 きらめきプロジェクト所属

### 現在の勤務状況

月曜：PM 九州大学 外来急患担当  
火曜：AM 九州大学 再診外来  
水曜：AM 市中病院勤務  
木曜：PM 市中病院勤務  
17:00～ カンファレンス  
金曜：AM 九州大学 新患外来

付かず離れず、いい関係性の兄妹



### 1年を振り返って

初めての保育園に、年度始めの2ヶ月ほどは子供も親も体調を崩すことが多く、辛い日々でした。  
月の半分以上を病児保育にお世話になり、保育園からの呼び出しの電話に怯える日々もいつの間にか終わり、現在はほとんど保育園をお休みすることもなく、毎日元気に通園しています。  
きらめきプロジェクトに所属させていただき、ある程度余裕のあるスケジュールで仕事をするのができたため、なんとか家庭と仕事を両立させることができ(多分)、大変感謝しています。  
今年度は育休からの復帰や保育園デビューなどで研究をする余裕もなかったので、来年度は何かテーマをもって研究・外来を行いたいと思っています。  
来年度もきらめきプロジェクトに所属させていただく予定ですので、家庭と仕事どちらも自分のペースを守りながら精進したいと思います。

## 令和5年度 きらめきプロジェクト活動報告

### 皮膚科 医師

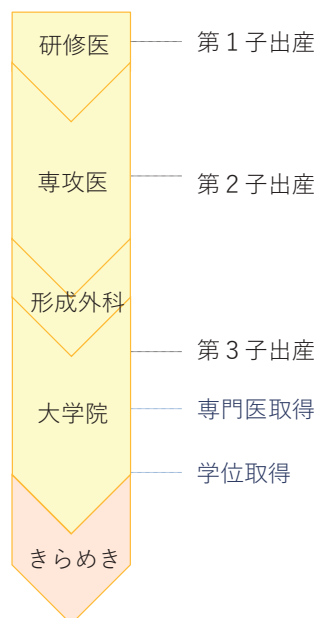
#### はじめに

コロナ禍での学級閉鎖や様々な制限下で仕事と育児との両立は難しいと諦めていたところ本プロジェクト経験の先輩方の話を伺いもう少し踏ん張ってみようと思い、今年度より本プロジェクトに参加させていただきました。

#### 活動日

月：大学病院での外来診療  
火：（e-learningやメール対応など）  
水：大学病院での外来診療  
木：大学病院での外来診療  
金：クリニックでの外来診療

#### 経歴



#### きらめきプロジェクトに参加して

仕事と育児の両立は綱渡りの毎日で悩みは尽きませんが、このプロジェクトに参加し時短勤務のおかげで、家族と話す時間が増え、子供だけでなく私自身も心や体調の安定につながっているなど実感しています。子供の急病時は、朝から病児保育難民となり診療時間に間に合わないことも多々ありスタッフだけでなく患者様にも迷惑をかけてしまい後ろめたさを感じますし、子供が大きくなり「あのとき急に知らない人（シッターさん）がきて怖かった」「あの病児保育でこんなことがあって怖かった」「一人で家にいるのは怖かった」と笑いながら話してくれるも、そばで看病できなくて申し訳なかったなと思いますが、これまで沢山の方の支えのおかげで私も子供も成長でき感謝の日々です。仕事と育児の両立は大変ですが、“大変な時は大きく変わる”と信じて沢山のご縁と経験を大切に少しずつ前に進めたいいなと思っています。

#### 最後に

このきらめきプロジェクトを支えて下さるスタッフの皆様、大学職員の皆様をはじめいつも近くで支えてくれる家族、友人、同僚、先輩、スタッフの皆様、夫の職場の皆様、いつも子供たちをあたたく見守ってくださる保育園、小学校、病児保育、託児所、地域の皆様にご場をお借りして心から御礼申し上げます。  
少しでも恩返しができるようこれからも日々精進して参りたいと思います。

# 令和5年度 きらめきプロジェクト活動報告

## 泌尿器科 医師

### 自己紹介

卒後14年目の泌尿器科医です  
令和5年度よりきらめきプロジェクトに所属しております

### 勤務内容

週2回 大学で排尿外来を担当  
患者さんそれぞれに適した排尿管理方法の選択、排尿状態の確認などが主な仕事内容  
必要な場合は尿流動態検査を施行  
大学病院以外は関連病院に勤務(主に外来業務)

### 略歴

2010年4月～2012年3月 九州大学病院 初期研修医  
2012年4月～2015年3月 泌尿器科入局 関連病院をローテート(長男出産)  
2015年4月～2019年3月 大学院入学(次男出産)  
2019年4月～2022年3月 関連病院勤務(フルタイム、時短勤務)  
2023年4月～ きらめきプロジェクト参加

### 家族構成

夫:内科医(優しい、料理は苦手、掃除洗濯◎)  
息子①:小学4年生(恐竜大好き、優しく繊細、争いごとは苦手)  
息子②:小学1年生(なんでもお兄ちゃんのマネがしたい、親のいうこと聞かない、公園大好き)  
息子が二人とも小学生になり、喜んだのもつかの間、日々新たな悩み事が増えていくばかりです。二人の性格も正反対で育て方には日々頭を悩まされています。  
こどもたちとの時間が確保される今の働き方に感謝しています。



夏休みは福井県立恐竜博物館へ



なんだかんだ仲良しな二人



恐竜大好き

### きらめきプロジェクトに参加して・・・

2023年4月からきらめきプロジェクトに参加させていただき、仕事と育児をともに頑張ることができています。フルタイム勤務されている女性医師の方々もいる中で、これは甘えなのか・・・と、働き方についてはいろいろと悩んだりすることもあります。子育てに悩んだときは仕事を辞めようかと思ったこともありました。ただ一度現場を離れてしまうと、いざ復職しようと思っても怖くてできないのではないかという不安もありましたので、いまの働き方をさせていただく機会を与えてもらって感謝しています。

### 今後の抱負

大学院で排尿分野の研究を行い、現在は大学病院の排尿外来を担当しております。大学では貴重な症例を経験することもでき、日々勉強させていただいております。泌尿器科は女性医師がまだまだ少なく、そのニーズを感じることも増えてきました。必要とされる場所できちんと役割を果たせるように日々努力し、成長できるように過ごしていきたいです。

「私ときらめきプロジェクト」  
令和5年度 きらめきプロジェクト活動報告  
眼科 橋本左和子

眼科医として働き始めて17年目になります。研究の継続と家庭生活との両立のため、きらめきプロジェクトにお世話になりました。

週1日大学での専門外来  
主に研究テーマである加齢黄斑変性の患者さんの診療にあたっています。  
本年度はいくつかの臨床研究の解析に携わることができ、とてもやりがいがありました。



大学院時代から続けている久山町研究。  
今年には4年に1回の大健診の年でしたので、外来前に健診のお手伝いへ行きました。

現在長男小6、長女が小4です。  
ついに今年は長男の中学受験。  
塾の送り迎えや勉強に付き合い、出来る限り協力しました。



きらめきプロジェクトは講演会などを通して諸先輩方の経験談に感心し、またスタッフの方や先生方との交流が日々の励みになりました。  
最長の5年間に在籍することができ、充実した大学病院勤務生活を送ることができました。  
本当にお世話になりました。

## 「令和5年度 きらめきプロジェクト活動報告」

臨床教育研修センター 内科医師

研究留学から帰国後、研究を継続しております。  
介護と仕事の両立を目指して、きらめきプロジェクトに参加させていただきました。

### 略歴:

2006年3月 大学院修了(医学博士)  
2007年4月 九州大学病院 医員  
2007年9月 カリフォルニア大学サンフランシスコ校(UCSF) 研究員  
2008年9月 カリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD) 研究員  
2014年5月より 九州大学病院先端分子細胞治療科勤務  
2020年4月より きらめきプロジェクト所属

### 研究:

大学院から留学中にかけて、癌の発生に関する研究をおこなっていました。  
帰国後、先端分子細胞治療科に所属し癌治療に関する研究を進めておりました。  
きらめきプロジェクトに参加させていただけたおかげで、臨床・研究を継続でき発展させることができました。

### この一年を振り返って:

2022年4月に採択されたJSPS科学研究費基盤Cの研究を今年度も継続しました。  
2023年4月 日本肝臓学会専門医を更新。  
2023年9月 Bio Clinica の topics に研究内容が掲載されました (下記にabstract \*)。  
(Bio Clinica 38 (10), 2023(891) P.73)  
2023年10月 日本遺伝子細胞治療学会認定医を取得。  
2023年12月 米国特許が登録されました。  
2024年1月 日本再生医療学会認定医を更新しました。

### 腫瘍溶解性ウイルス療法の消化器がん、膵がんへの応用 (abstract)

腫瘍溶解性ウイルスとは、がん細胞に感染してこれを細胞死させるウイルスである。ウイルスの感染したがん細胞は融解し、感染性を持つ新たなウイルス粒子を放出する。腫瘍溶解性ウイルスは腫瘍細胞を直接死に至らしめるのみならず、宿主の抗腫瘍免疫活性を上昇させることが報告されている。抗腫瘍薬としてのウイルスの可能性は 20 世紀の初頭から模索され始めた。当初は未精製の新規ウイルスが用いられたが、1960 年代になるとウイルスを厳選し精製して使用する様になった。アデノウイルス、レオウイルス、麻疹ウイルス、単純ヘルペスウイルスなどの多くのウイルスの腫瘍溶解性が報告されている。超音波内視鏡 (EUS) 下での投与が可能な膵がんも腫瘍溶解性ウイルス療法の適応と考えられている。最近、筆者らはピコルナウイルス科に属するウイルスに腫瘍溶解性があることを見出した。そのうち、コクサッキーウイルス A11 (CVA11) は大腸がんに対して有効であることが明らかとなり、報告した。今回、膵がんへの応用の可能性について考察する。

この一年を通して専門医としての診療、研究の継続を行うことができました。  
きらめきプロジェクトに参加させていただき、このような実り多き一年となりましたことを心より感謝申し上げます。

## 令和5年度 きらめきプロジェクト活動報告

病態機能内科学 消化器研究室 森 麻里母

### ☆ 自己紹介 ☆

卒後8年目の消化器内科医です。6年目に結婚し、第1子を妊娠しました。勤務していた病院は、急性期病院で、連日急患がありましたが、上司および同僚の理解があり、妊娠初期より、透視下の検査・治療、内視鏡オンコール、救急当直は免除して対応していただきました。出産後、3ヶ月の育休を取り、同病院で週3（フルタイム）で復帰しました。子は院内保育園を利用し、低月齢での入園で、不安でしたが、とてものびのび過ごしていました。

8年目より、夫の仕事・家庭の都合で、大分県別府市へ移住することになりました。しかし、研究室の関連病院がなく、困っていたところ、上司の紹介で、九大別府病院での入職が決まり、教授、研究室主任、九大別府病院院長先生、事務の方々の計らいで、きらめきプロジェクトに応募することができ、所属させていただきました。

経歴	
2016年	山口大学卒業
1～2年目	JCHO九州病院 初期研修
3年目	小倉医療センター
4年目	大学病院 病棟医員
5年～7年目	九州中央病院 内科専門医取得 結婚、第1子出産 産後4か月で時短復帰
8年目	大分県別府市に移住 7月～きらめきプロジェクト所属 九州大学病院別府病院
9年目 (来年度)	6月～産休予定 消化器内視鏡専門医 消化器病専門医 取得予定

### 勤務状況

週に3日 九州大学病院別府病院 (9:30～17:30)

#### 1日の主なスケジュール

6:00	起床 朝食準備、家事
6:30～7:30	子供を起こす、登園準備、朝食
8:00	夫と子供 出動/登園 片付け、出勤準備
9:00	出勤
9:30～16:30	上下部内視鏡検査 ERCP検査 内視鏡治療
17:00	帰宅 夕飯準備、家事
17:30～ 19:00	夫と子供帰宅 夕食
～20:30	子供と一緒に入浴、 絵本タイム、子供就寝
21:00～22:30	片付け、家事、食事の作り置き
23:00	就寝

### ☆ 家族構成 ☆

夫：精神科医と家業の二足のわらじ。週に1～2日当直で不在。その他の日は子供の保育園の送り迎えを担当し、18時までは帰宅。とても協力的！  
子：娘（1歳6か月）。あまり人見知りなく、絶対アンパンマン推し活に夢中 ☺  
両親/義両親：自営業が忙しく、子育て参加は難しい。

### ☆ 1年を振り返って 今後の目標 ☆

上下部内視鏡検査、内視鏡治療およびその入院管理に加えて、これまで経験していなかったERCP手技の経験を積むことができました。毎日が慌ただしく、仕事、家事・育児でやろうとしていたことができずに、自己嫌悪になったりもしました。家族の支えに加えて、職場の方々は、急な欠勤にも対応していただき、定時に帰れるよう心配して声かけをしてもらったり、恵まれた環境に何度も救われました。

また、子供が毎日楽しく、すくすく成長している様子を見るのがとても嬉しく、明日も頑張る元気の源になっていると思います。

来年度は産休に入らせていただく予定で、臨床から少し離れてしまう時間がありますが、ステップアップできるよう、7月に消化器内視鏡専門医、10月に消化器病専門医を取得を目指して、励んでいきたいです。

# 令和5年度 きらめきプロジェクト活動報告

顔面口腔外科 泉谷 真理子

## 自己紹介

卒後14年目の歯科医師です。

結婚を機に2019年から休職し、2児を出産しました。子ども達がまだ幼く手がかかるうえ夫は多忙、両親は遠方で頼れず、コロナの影響もあり、しばらくの間は復職を諦めておりましたが、きらめきプロジェクトに所属している医局同期から話を聞き私も本プロジェクトで復職させていただきたいと思い、長女の幼稚園の預かり保育が可能となった2023年10月より参加させていただくことになりました。

### 略歴

2010年 鹿児島大学卒業、歯科医師免許取得  
2010～2011年 九州大学病院にて初期臨床研修  
2011～2014年 九州大学病院顔面口腔外科へ入局  
大学院修了、博士号(歯学)取得  
2015年 九州大学病院顔面口腔外科 医員  
口腔外科認定医取得  
2016～2017年 九州中央病院歯科口腔外科にて勤務  
2018年 九州大学病院顔面口腔外科 医員  
結婚(夫は沖縄で単身赴任)  
2019年 休職(月2回外勤)  
2020年 長女出産  
2022年 次女出産  
2023年10月～ きらめきプロジェクト参加

### 家族構成

夫 大学病院の救急医。シフト制勤務。激務だが少しでも時間ができたら家族を遊びに連れて行ってくれる。  
長女(3歳) 週5で幼稚園の未就園児クラスに通う。  
ミッフィー大好き。習い事を頑張っている。  
シャワーが苦手。最近スイミング教室に通い始めた。  
次女(1歳) 普段は自宅保育だがママ勤務時は保育園の一時預かりへ。  
いたずら大好き。お姉ちゃんが大好きで、よくお姉ちゃんの大切にしているものを持ち出して怒られている。離乳に苦戦中。

### 勤務

毎週水曜日 顔面口腔外科外来 (月1回AM 周術期口腔ケア外来)  
復職後、  
抜歯、顎骨嚢胞、顎関節症、炎症、粘膜疾患、顎骨壊死等の診療に従事しています。

## 1日のスケジュール

6:00	8:10	9:10	10:00	17:00	17:30	18:30	19:00	20:30	23:00					
起床	朝食準備	長女幼稚園へ	通勤	次女保育園へ	勤務開始	勤務	勤務終了	次女お迎え	帰宅	夕食・入浴	寝かしつけ	片付け	明日の準備	就寝

### 勤務

(夫が夜勤明けの日は長女お迎え。それ以外は18時まで幼稚園の延長保育)

## 半年間を振り返って

外来小手術に関しては3年半のブランクがあり心配していましたが、サポートして下さる医局の先輩方のおかげで少しずつ勤を取り戻しつつあります。  
現在は難易度高めの智歯抜歯や歯根端切除術等の小手術にトライしています。

勤務前日が夫夜勤でワンオペのことが多く、前日からソワソワ・バタバタしながら翌日のシミュレーションをしていましたが、半年が経過し生活リズムが出来てきました。一度だけ子どもの嘔吐下痢で勤務出来ない日がありましたが、周囲の先生方が快く代診を引き受けてくださり大変救われました。

## 今後の目標

来年度からは勤務日数を週2日に増やし、様々な症例を経験すること、外科手技のスキルアップを目標としています。  
また、キャリアアップのため日本口腔科学会の認定医取得を目指したいと考えています。

私にとって、復職はハードルの高いものですがきらめきプロジェクトに参加することで、復職の機会を与えていただけたことを大変ありがたく思います。

# 令和5年度 きらめきプロジェクト活動報告

顔面口腔外科 竹下 祐香里

## 活動目的 きらめきプロジェクトの経緯

九州大学病院での研修医終了後、顔面口腔外科にて後期研修医として2年間診療に携わりました。妊娠を機に退職し、令和2年に第一子出産後、本プロジェクトに参加させていただきましたが、出産前に退職し、令和4年に第二子を出産しました育児も落ち着き口腔外科に戻りたいという強い気持ちが芽生え、令和5年4月に再度復職となりました。

## 略歴

2017年	九州大学病院複合型歯科医師臨床研修開始
2018年 3月	同上初期研修終了
4月	九州大学病院顔面口腔外科入局
2020年 3月	退局
11月	長女出産
2021年10月	きらめきプロジェクトにて復職
2022年 3月	退局
7月	次女出産
2023年 4月	きらめきプロジェクトにて二度目の復職

## 1週間のスケジュール

月: 大学勤務(9:00~16:00)  
火: 外勤(訪問歯科)  
水: フリー  
木: 大学勤務(9:00~16:00)  
金: フリー

月木で出勤が難しい場合は水金に変更することも可能なため子供の急な体調不良にも対応が可能。医局の先生方の理解あつての勤務形態です。

## 活動内容

大学出勤日は午前中に新患対応、午後は再来対応を行っております。月2回、周術期口腔ケアに参加し、術前術後の患者の口腔ケアに従事しております。

外勤先が訪問歯科のため、基礎疾患をお持ちのご高齢の患者が非常に多く、抜歯一つでも全身状態をみながら治療方針が異なります。粘膜疾患の症例も多く、口腔外科に所属しているため施設スタッフや先生からの相談を受けることも多くなり、大学で学んだことを活かし症例にあつた治療方針の提案や治療を私なりですが行えるようになりました。他院への情報提供書を作成する機会も増え、大学で培った『先方に分かりやすく』をモットーに行っております。

長女3歳、  
次女1歳  
すくすくと  
成長中。



週末はアクティブに動き回り、最近ボーリングデビューしました。

## 活動実績

- ・粘膜疾患(白板症・扁平苔癬等): 11症例
- ・顎関節症: 4症例
- ・顎変形症: 4症例
- ・腫瘍性病変: 5症例(悪性1症例)
- ・嚢胞病変(歯根嚢胞・含芽性嚢胞等): 7症例
- ・智歯抜歯: 35症例
- ・普通抜歯(残根抜歯・便宜抜歯): 22症例
- ・舌小帯強直症: 2症例

(2023.4~2024.1)

## プロジェクトを振り返って

子供が二人いる状況でも臨床に携われる勤務形態は、自分自身にとって社会との関わりが出来て、母親という仕事と切り離し、まったく違う人間になれる時間でした。育児と仕事を両立したい...と考えられている女性医師はたくさんいらっしゃると思います。私の経験が少しでも復職の後押しになればと思います。今年の4月より主人の仕事の関係で東京へ転勤となりました。大学で学んだことを新天地でも繋げていけるように精進していく所存としております。

# 令和5年度 きらめきプロジェクト活動報告

顔面口腔外科 吉濱 るみ

## 自己紹介

卒後14年目の歯科医師です。

### 【略歴】

2010年 歯科医師免許取得  
2010 - 2011年 九州大学病院で臨床研修  
2011 - 2014年 九州大学病院顔面口腔外科に入局  
博士号(歯学)取得  
2015 - 2016年 市立伊丹病院 歯科口腔外科に出向  
口腔外科学会認定医取得  
2017年10月 長女出産  
2019年3月 長男次男(双子)出産  
2021年4月～ 4年のブランクを経てきらめきプロジェクトにて  
九州大学病院顔面口腔外科医局へ復帰

## 家族構成と生活

夫(40歳): 顔面口腔外科助教。育児家事には比較的協力的。

私(38歳): きらめき3年目。子供の成長とともに病欠欠席の回数が減ってきたためR5年度より外勤もスタート。

長女(6歳): 幼稚園年長。甘えん坊。  
習い事: バレエ、ピアノ、プール



長男次男(4歳双子): 幼稚園年中。  
元気いっぱい3月生まれさん。  
習い事: 長男 サッカー、プール  
次男 ピアノ、プール



## 活動実績

今年度は週2回顔面口腔外科外来で勤務し、週に1、2回外勤を行って参りました。

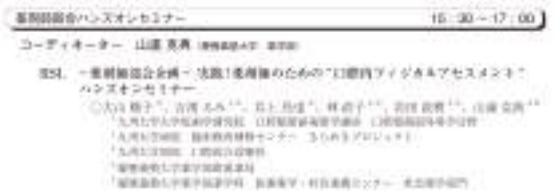
勤務日には口腔外科外来小手術の他に口唇口蓋裂、顎変形症専門外来や周術期口腔ケアセンターでの診療にも従事させて頂いております。

### 第20回日本口腔ケア学会総会・学術大会にて、当科の大山講師とともに薬剤師に向けて第一回ハンズオンセミナーを実施しました！

近年の他職種連携において薬剤師も口腔からの健康サポートに関与することが推奨されるようになり、R4年度に文部科学省により薬学部コアカリキュラムのセルフケア、セルフメディケーションの項目で口腔ケアが追記され、ますます薬剤師の口腔ケア領域への参加の期待が高まっています。それに伴い現役の薬剤師の先生方にも口腔ケアへ参加して頂く事を目指し、口腔ケア学会薬剤師部会部長である慶応義塾大学薬学部の山浦教授を中心とし、当科の大山講師とともに企画を行っております。

そのファーストステップとして、今年度の第20回日本口腔ケア学会総会・学術大会において薬剤師に向けて第一回ハンズオンセミナーを実施しました。口腔乾燥症をテーマとし、口腔内のフィジカルアセスメントを行えるように講義やグループワークによる模擬実習を行い、最終的には薬局窓口での口腔内フィジカルアセスメントから適切な保湿剤の選択、塗布の方法の習得までを到達目標とした実技実習までを行い、大変ご好評を頂きました。

第21回日本口腔ケア学会・学術大会においてもよりブラッシュアップした内容で第2回ハンズオンセミナーを開催する運びとなっております！また2024年5月に開催される日本老年薬学会学術大会でも口腔ケアハンズオンセミナーを開催させて頂く予定としております！



## 今後の目標

来年度はいよいよ長女が小学校1年生となります。長女は学童保育、長男次男は引き続き幼稚園の預かり保育を継続しながら、きらめきプロジェクトを利用させて頂き週3回の外来での時短勤務と外勤を行っていく予定としております。



2021年に復職した際は、子供達は3歳、2歳、2歳。病欠三昧の毎日で週1回の勤務もこなせるかどうかで正直焦る気持ちもありました。今では明日病欠するんじゃないか、という心配からはほとんど解放され、振り返ると週に1回、2回とスローペースではありましたが、キャリアを継続させられたこと、子供達の成長を見守れたことをとても有り難く感じております。今後の目標としては、子供達をサポートしながら、できる限り臨床を継続し、学会活動や論文の執筆等を行いながら専門医取得を目指しております。

最後になりましたが、3人の未就学児の育児をしながらも安心して働ける環境を提供してくださっているきらめきプロジェクトのスタッフの皆様、および医局に心から感謝申し上げます。

## 令和5年度 きらめきプロジェクト活動報告

歯科麻酔科 太田百合子

### ～自己紹介～

卒後6年目の歯科麻酔科医です

2018年 九州大学病院 臨床研修医A2コース  
2019年 九州大学病院 歯科麻酔学 入局  
2021年 日本歯科麻酔学会 認定医取得  
結婚  
2022年 日本口腔顔面痛学会 認定医取得  
出産  
2023年 きらめきプロジェクト所属

### ～家族構成～

夫:歯科医師(九大病院勤務)  
長男:1歳

### ～週間スケジュール～

月曜日:AM勤務(麻酔) PM育児家事  
火曜日:AM勤務(麻酔、ペイン) PM育児家事  
水曜日:育児家事  
木曜日:AM勤務(麻酔、周術期) PM育児家事  
金曜日:外勤(2月から)

### ～2023年度 業績～

#### ・日本歯科麻酔学会学術集会発表

- ツールを用いたデンタルチェア上での胸骨圧迫は疲労軽減にも有効である  
太田百合子、一杉岳、羽野和宏、衛藤理、西村玲、後藤満帆、横山武志
- 頭頸部領域の緊急気管挿管法について:15例の検討  
太田百合子、後藤満帆、西村玲、羽野和宏、衛藤理、一杉岳、横山武志

#### ・日本口腔顔面痛学会総会・学術大会発表

- 「歯を食いしばってがんばる」心理社会因子とその結果としての下顎隆起との関連について 優秀ポスター賞  
坂本英治、太田百合子、細井昌子、安野広三、村上匡史、田中佑、藤本晃嗣

#### ・日本歯科麻酔学会雑誌 論文

- 脳肝型ミトコンドリアDNA枯渇症候群患者の歯科治療に対する全身麻酔経験  
2023年 第51巻第1号 p.1-3  
後藤満帆、塚本真規、羽野和宏、西村玲、衛藤理、太田百合子、一杉岳、横山武志

#### ・臨床

##### 活動内容

- 麻酔管理 症例数:120例(2023.4～2024.1)
- ペイン外来
- 周術期口腔ケアセンター(2週間に1回勤務)

### ～まとめ～

年度始めの4月、生後2ヶ月の子供の育児を初めてしながら仕事もできるのだろうかとても不安でしたが、家族の支えがあって1年間育児と仕事を続けることができました。そして、キャリアを維持できるようにサポートして下さったきらめきプロジェクトの先生方やスタッフの皆様、医局の先生方には本当にお世話になりました。学術大会での発表、また認定医更新や専門医取得のための診療ができ、きらめきプロジェクトに参加させていただき、実り多き一年となりましたことを心より感謝申し上げます。

# 「令和5年度 きらめきプロジェクト活動報告」

高齢者歯科・全身管理歯科 名前 桐石 祥果 

## 自己紹介

卒後10年目の歯科医師です。  
卒業後すぐに結婚、関東に在住しておりましたが、帰郷し5年のブランクを経て、医員として仕事復帰し、きらめきプロジェクト所属となりました。



## 略歴

- |           |                              |
|-----------|------------------------------|
| 2014年     | 出身大学卒業                       |
| 2016年     | 結婚                           |
| 2018年     | 長男出産                         |
| 2020年1-3月 | 九州大学病院 高齢者歯科・全身管理歯科<br>研修登録医 |
| 同年4月      | 医員として勤務                      |
| 2021年-    | きらめきプロジェクト参加                 |



## 1週間の生活

- |   |             |
|---|-------------|
| 月 | 九州大学病院 外来勤務 |
| 火 | 外勤日(訪問歯科診療) |
| 水 | 外勤日(訪問歯科診療) |
| 木 | フリー         |
| 金 | 九州大学病院 外来勤務 |



## 1日のスケジュール

- |        |        |
|--------|--------|
| 6:30   | 起床     |
| 8:30   | 送迎 幼稚園 |
| 10:00  | 仕事     |
| 18:00~ | 帰宅     |
| 24:00~ | 就寝     |



## 活動内容・目標

全身疾患や服薬内容によって歯科治療を受けにくい方を中心に、医科と連携を取りながら、診療を行っています。また、化学療法・放射線療法・全身麻酔下での手術等に対する口腔内精査を行っています。

個人では、歯科治療恐怖症患者さんへのアンケート(MDAS)調査を行っています。また、認定医の取得を目指し、研究を続けています。

## きらめきに参加して

コロナ渦だったこともあり、息子の幼稚園では平日に行事をおこなうことが多かったのですが、きらめきに参加させていただくことで、行事参加が可能となり、嬉しそうな子供の姿を見守ることができました。

また、仕事面では患者を受け持つことで、治療の経過が分かり、さらに外勤日に介護施設での訪問歯科診療を行うことで、歯科診療だけでなく、幅広い知識やスキルを学ばせていただいています。

このような生活を送ることができるのも、きらめきプロジェクトや理解ある医局の先生方、家族のおかげだと思っています。感謝の心を忘れずに、今後も自己研鑽に励んで参りたいと思います。





## 令和5年度 きらめきプロジェクト活動報告

高齢者歯科・全身管理歯科 實松 愛華

### 自己紹介

卒後19年目の歯科医師です。長いブランクを経て約2年前に仕事復帰致しました。子育てと仕事の両立のため、今年度からきらめきプロジェクトに参加させていただいております。

### 略歴

- 2005年3月 九州大学歯学部卒業
- 2005年～2007年 聖マリア病院歯科研修医
- 2009年 長男出産
- 2013年 長女出産
- 2022年～ 九州大学高齢者歯科・全身管理歯科に医員として勤務
- 2023年～ きらめきプロジェクト参加

### 勤務状況

- 水曜：外勤（訪問歯科診療）
- 木曜：大学病院外来
- 金曜：大学病院外来

### 1年を振り返って

きらめきプロジェクトに参加させていただいたことで、子供と過ごす時間を増やすことができました。診療に関しましては、引き続き多くの経験を積ませていただいております。サポートしていただいている医局の先生方や家族、きらめきスタッフの皆様への感謝を忘れず、今後も精進して参ります。

# 令和5年度 きらめきプロジェクト 活動報告

4月

## 5月 ジェンダー学講義(医学部)

講師:きらめきプロジェクト  
プログラム責任者 加藤 聖子先生  
顧問 榑木 晶子先生

## 医学部学生交流会

講師:福岡県医師会  
副会長 一宮 仁先生  
常任理事 戸次 鎮史先生

## 性差医学入門講義(医学部)

講師:  
九州大学病院乳腺外科(1)  
准教授 久保 真先生  
きらめきプロジェクト  
副プログラム責任者 宮田 潤子先生

『きらめき通信』発行

6月 月例スタッフミーティング  
令和5年度きらめきスタッフ秋募集開始

7月 『きらめき通信』発行  
令和5年度きらめきスタッフ秋募集  
採用面接

8月 月例スタッフミーティング

9月 『きらめき通信』発行

## 10月 令和5年度講演会

「男性の育児参加:  
長崎大学心臓血管外科における  
育休取得のこころみ」

講師:  
長崎大学病院心臓血管外科  
教授 三浦 崇先生

## 歯学部学生交流会

講師:  
鳥谷歯科医院 桑鶴 利香先生

## 11月 ジェンダー学講義(歯学部)

講師:  
きらめきプロジェクト  
副プログラム責任者 清水 真弓先生

月例スタッフミーティング

『きらめき通信』発行

令和6年度きらめきスタッフ募集開始

## 12月

1月 『きらめき通信』発行  
令和6年度きらめきスタッフ募集採用面接

## 2月

3月 月例スタッフミーティング

## スタッフ発表会

～1年間の活動報告・紹介を行うことにより、  
きらめきプロジェクトの活動意義を自他ともに  
確認・周知し、これからのプロジェクトの在  
り方を考えるよい機会となっています～

『きらめき通信』発行

九州大学病院臨床教育研修センター きらめきプロジェクト

TEL/FAX:092-642-5203

E-mail:kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp



きらめきプロジェクト HP

## 6. 学内外での活動

### 学内での活動

#### ●名古屋大学 ご来訪

9月28・29日の両日、名古屋大学大学院 国際開発研究科 教授 岡田 亜弥先生をはじめとする5名の先生方が、現在取り組まれているジェンダー平等推進に関する研究の一環として、本院を訪問されました。

今回のご訪問では、本プロジェクトプログラム責任者である加藤 聖子先生ほか4名の医師に対し、女性医療人や研究者のキャリア形成や継続における取組、課題など多岐にわたる項目についてインタビューが行われました。



#### ●高校生による九州大学訪問

10月25日、筑紫女学園高等学校の将来医療の分野を志す2年生のみなさんが本学馬出キャンパスを訪れました。

先輩女性医療人として、きらめきプロジェクトの医師・歯科医師3名が、生徒たちとの懇談に参加しました。

短い時間でしたが、先生方は生徒たちのグループを回り、生徒たちからの熱心な発言、質問に耳を傾け、自身の経験等を交えながら、一つ一つ丁寧に答えていました。



## 学外での講演等

●熊本大学病院男女共同参画コーディネーターの会

開催日時：令和5年10月16日（月）

開催場所：Web開催

講演タイトル：「男女ともに働きやすい環境をめざして」

九州大学医学研究院 生殖病態生理学 教授

九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト顧問

加藤 聖子

●長崎大学薬学部講義

開催日時：令和5年12月21日（木）

開催場所：長崎大学文教キャンパス 薬学部本館2階第2講義室

授業科目名：ヘルスサイエンス特論V

九州大学医学研究院 生殖病態生理学 教授

九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト顧問

加藤 聖子

## 7. 情報発信（きらめき通信）

2ヶ月に1回、きらめき通信を発行しています。院内および学内に向けて、プロジェクトの活動報告やイベント案内のほか、当プロジェクトに所属するスタッフを各回で紹介しています。

vol.74 5月発行

### きらめき通信 vol.74

2023年5月（隔月発行）

#### 医学部フェンダー学講義・性差医学入門講義 を行いました

医学部フェンダー学講義・性差医学入門講義 学生の感想（抜粋）

- これからの医師に求められる素養や考え方について考えるいい機会になりました。
- 活動な労働環境の下でもなお質の高い医療を届けようとする姿勢でこれまでの医師たちは素晴らしいと感じた。医師は社会的責任を伴う職業であるので、より良い医師になれるよう努めたい。
- 育児支援や卒業後の就職支援、様々な情報の受付などによって、性別関係なく全ての医師が働きやすく質の高い医療を提供できるように環境になってほしいと思う。
- 女性もプロの自覚を持ち働き続けるといった意識をもたなければならぬ。
  - 男女の体の構造が違うというだけで、こんなにもかかる側差があると知り驚きました。
  - 人は、いる場所によって病状やリスクの解釈や予後が変わってくると思うので、自分が学校で学んだことをいろんな人に届け、広げていきたい。
  - 今のうちにある種痘の目標とやりがいことを頭の中に書きながら勉強するべきという考えを聞き自分の目標を常に押しながら勉強をしていこうと思いました。
- 医師の分野において、病状のわかりやすさなどに男女差があるのは理屈からであり、作業に注目は医療は必要なものだと思う。
- 性差だけでなく、患者さん一人一人に合う治療の提供をすることが医療人の使命なのだと感じました。
- 一つの診療科だけでなく、チーム医療が必要であり、多診療科間の連携が大前提であると思った。
- 患者に親身に寄り添い、見守るという立場を徹底する。
- 患者さんの悩みを共有して、ともに解決していきたい。

男女の体の構造が違うというだけで、こんなにもかかる側差があると知り驚きました。

人は、いる場所によって病状やリスクの解釈や予後が変わってくると思うので、自分が学校で学んだことをいろんな人に届け、広げていきたい。

今のうちにある種痘の目標とやりがいことを頭の中に書きながら勉強するべきという考えを聞き自分の目標を常に押しながら勉強をしていこうと思いました。

医師の分野において、病状のわかりやすさなどに男女差があるのは理屈からであり、作業に注目は医療は必要なものだと思う。

性差だけでなく、患者さん一人一人に合う治療の提供をすることが医療人の使命なのだと感じました。

一つの診療科だけでなく、チーム医療が必要であり、多診療科間の連携が大前提であると思った。

患者に親身に寄り添い、見守るという立場を徹底する。

患者さんの悩みを共有して、ともに解決していきたい。

### きらめき通信 vol.74

2023年5月（隔月発行）

#### 医学部フェンダー学講義・性差医学入門講義 を行いました

●フェンダー学講義  
5月8日（月）2・3時限目  
講師 さらめきプロジェクト  
プログラム責任者 加藤 聖子 先生  
顧問 清水 昌子 先生

加藤 聖子 先生 清水 昌子 先生

●性差医学入門講義  
5月9日（火）3・4時限目  
講師 さらめきプロジェクト  
プログラム責任者 吉田 聖子 先生  
九州大学附属乳癌外科  
診療科医 久保 真 先生

吉田 聖子 先生 久保 真 先生

医学部2年生を対象としたフェンダー学講義、性差医学入門講義を約4年ぶりに対面方式で行いました。講義では、講師の先生方がそれぞれの専門の観点から案件なども交えて、お話しされました。

九州大学病院臨床教育研修センター  
きらめきプロジェクト  
〒812-8582 福岡市東区馬出丁西1-1  
TEL・FAX: 092-642-5283  
E-mail: kirameki@kita.kyushu-u.ac.jp

### 令和5年度 医学部学生交流会を開催しました

【日時】令和5年5月8日（月）12:00～12:55  
【場所】九州大学病院キャンパス 臨床小講堂2

約4年ぶりに対面形式での医学部学生交流会を開催しました。

今年は、福岡県医師会から副会長 一言 仁先生と常任理事 戸次 誠史先生にお越しいただきました。会場いっぱいに参加した学生に向けて、先輩医師のお立場からお話をしていただきました。この日は開催時間に合わせて、美味しいランチをいただきながらの会となりました。

参加者からは、先生の講演、刺激を受けました！私達の世代以降では男女の役割分担意識が改善されているといいと思います。医師がより良いキャリアプランを送るために必要な取り組みだと思います。今後も同じような交流会の開催を希望します。などの感想が寄せられました。学生たちには、自分たちの将来を考えるよい機会となったようです。

今回は、121名の学生の皆さんのご参加がありました。ご参加いただき、ありがとうございました！

福岡県医師会  
副会長  
戸次 誠史先生

臨床教育研修センター長  
西村 貴樹 先生

福岡県医師会  
副会長  
一言 仁先生

# きらめき通信 vol.75

2023年7月(隔月発行)

**九州大学病院周術期口腔ケアセンターを  
センター長の和田 尚久先生にご紹介いただきました！  
～きらめきスタッフ(歯科医師)も頑張っています～**

本院歯科部門に設置されています周術期口腔ケアセンターときらめきプロジェクトとの関わりについてご紹介いたします。  
周術期口腔ケアセンターは2014年に院内に設置され、入院患者の口腔ケア支援センターおよび口腔外科の専門診療科と連携をとりながら、入院患者の口腔管理を担っています。具体的には、入院患者の合併症予防を目的として、手術や治療の前後に口腔診査を行い、口腔からの細菌感染の予防や口腔機能の管理、さらには治療の助けになるような口腔疾患の治療を行っています。



当院歯科部門には12の専門診療科がありますが、きらめきプロジェクトメンバーの歯科医師は、それまでの自身のキャリアを継続する事を目的として、各々の専門とする診療科に所属し、柔軟な働き方をしながら、大学での診療・教育・研究に携わっています。歯科部門の独自の取り組みとして、きらめきプロジェクトの全ての歯科医師に診療科での診療に加えて、周術期口腔ケアセンターにおいても定期的に診療を担当いただいています。センターとしては、異なる専門知識を持ったきらめきメンバーに診療担当していただくことで、マンパワーとしてだけでなく、診療内容の充実にも貢献していただいているというメリットがあり、協力に大変感謝しております。一方で、きらめきメンバーにとっても、専門的な知識だけでなく、周術期口腔機能管理の知識やスキルを深積できる良い機会となっているのではないかと考えます。

今後もきらめきプロジェクトメンバーによる診療協力を得て、Win-Winの関係を築きながら、良質な患者サービスを提供し続けていけることを願います。



## レディースコンパが開催されました

6月9日(金)に本学医学部在籍中の女子学生による女子学生のための会「レディースコンパ」が約4年ぶりに行われました。  
年に一度開催されてきたレディースコンパは、普段講義や実習で忙しい医学部の学生さんにとって、他の学年の先輩や後輩、先生方とお話できる数少ないチャンスです。

当日は、悪い思いのスタイルでおしゃれをし、勉強だけでなく部活や趣味のお話などをして交流します。  
今回出席された先生方から、「出産や結婚などで、女性医師として仕事との両立が難しいと考える方もいられないけれども、「Do your best!」自分が興味を持ったことには妥協せず一生懸命やってみるべき」とのお言葉が送られました。  
幹事を担当された学生の方々、参加された先生方、学生のみなさん、お疲れさまでした。



## 今年度最初のスタッフミーティングを開催しました

6月5日(月)に今年度第1回目のスタッフミーティングを開催しました。今回は周術期口腔ケアセンター長の和田尚久先生にもご参加いただき、自己紹介や今年度の予定についての話をしました。  
日頃は忙しく、なかなか顔を合わせる機会が少ないこともあり、参加したきらめきスタッフたちと集合写真も撮影しました。



九州大学病院 臨床教育研修センター  
きらめきプロジェクト  
〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1  
TEL・FAX: 092-542-5283  
E-mail: kirameki@ku.kyushu-u.ac.jp



## 日々頑張っている、きらめきプロジェクト所属のドクターを紹介します

卒後11年目の内科医師です。会社員の夫と子供二人(3歳6か月、1歳6か月)の4人家族です。卒後8年目から大学院に所属し、第一子を育てながら臨床研究にも携わっていましたが、結果を出せないまま、院4年目に第二子を出産しました。産後、研究室の先輩からのアドバイスを受け、研究と診療を継続するためきらめきプロジェクトに応募しました。2022年4月からきらめきプロジェクトで勤務を始め、今年が2年目となります。

勤務内容は、大学病院の外来で週に1回専門外来を担当し、週3回外勤(うち月2回心エコー検査を担当)しています。出産前は循環器内科医として勤務していたこともあり、昨年は循環器専門医試験にチャレンジし無事合格しました。今年は、高血圧専門医取得を目指しています。論文についてはデータの取り込みは完了し、勤務のない日に研究室や自宅で解析を少しずつ進めています。

私生活では、いやいや期を引きずる長男と歩き始めて動きの遅い次男に大変わんぱくですが、幸い、勤務が比較的穏やかであること、家事・育児に非常に協力的な夫のおかげで、笑顔で過ごすことができています。育児復帰の際、低月齢(当時4か月)の次男を預けることへの葛藤はありましたが、職場や夫の理解・協力もあり、心が楽になりました。家庭と仕事の両立は自分だけでは解決できないことの方が多いです。そのような中で、このありがたい環境を与えてくださっている研究室の先生方やきらめきプロジェクトの皆様、家族には感謝の気持ちでいっぱいです。

今年も自分なりの一歩を進められたらと思っています。



卒後13年目の小児科医です。公務員の夫と4歳2歳の男児の4人家族です。きらめきプロジェクトへは次男出産後、2022年4月より所属させていただいております。私は地元こそ福岡ですが九州大学出身ではなく、医間も出身大学である山口大学で卒後8年目までお世話になっておりました。長男出産を機に福岡へ戻ってまいりましたが、しばらくは福岡と山口を行き来しながら山口大学で学位を取得しました。その後の進路をどうするか悩んでいたところ、双方の小児科の教授から九州大学での勤務を勧めていただき、きらめきプロジェクトに応募することになりました。

小児科では内分泌グループに所属しており、週2回の専門外来と初診も担当させていただいております。週2回だけの勤務ですがグループ内でのカンファレンスだけでなく小児科全体のカンファレンスにもオンラインで参加でき、勉強の機会は意外に多いなと思っています。きらめきプロジェクトでは育児>仕事での育児と仕事の両立(しかも専門性のある仕事で)という貴重な働き方を叶えていただきありがたく思っています。また地元である福岡へ戻ってきたものの、こちらで育児中の先生方がどんなふうに働いているか具体的なイメージがなく不安に思っていました。知り合いの先生がほとんどのいない中でも、きらめきプロジェクトの活動報告やイベントで他の先生方がどんな働き方をしているのかを知る機会がありとても心強く思いました。





きらめきプロジェクト 活動紹介

名古屋大学から来訪がありました

9月28日(木) 29日(金)

9月28-29日の両日、名古屋大学大学院国際開発研究科 教授 岡田 圭彦先生をはじめとする5名の先生方が、現在取り組まれているジェンダー平等推進に関する研究の一環として、本院を訪問されました。今回のご訪問では、本プロジェクトプログラム責任者である加藤 聖子先生ほか4名の先生方に、女性医療人や研究者のキャリア形成や継続における取組、課題など多岐にわたる項目についてインタビューが行われました。



高校生による九州大学訪問

10月25日(水)

10月25日、筑紫女学園高等学校から将来医療の分野を志す2年生のみさんが本学高出キャンパスを訪れました。



先駆女性医療人として、きらめきプロジェクトの医師・歯科医師 3名の先生方が、生徒たちとの懇談に参加しました。短い時間でしたが、先生方は生徒たちのグループを回り、生徒たちからの熱心な発言、質問に耳を傾け、自身の経験等を交えながら、一つ一つ丁寧に答えていました。

九州大学病院 臨床教育研修センター

きらめきプロジェクト

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1

TEL・FAX: 092-642-5203

E-mail: kirameki@ins.kyushu-u.ac.jp

URL: https://www.kirameki.jp.kyushu-u.ac.jp/



きらめき通信 vol.77

2023年11月(毎月発行)

歯学部学生交流会を開催しました

日時: 令和5年10月23日(月)

対象: 歯学部2年生

場所: 鳥谷歯科医院(きらめき08)

講師: 利香先生



講師 利香先生



久保 秀樹先生

「歯科医師として働くこと-未来予想図を描くには?」をテーマに、将来歯科医師として社会人生活をスタートさせる学生たちにお話していただきました。歯科医師としてのキャリアプラン、結婚、出産・育児などのライフプラン、勤務医(大学病院、診療所)や開業医のマネープランの3つの視点から、学生たちが自分の将来を考える上で役立つ情報満載のお話でした。また、九州大学歯学部同窓会から会長の久保秀樹先生にご出



高いただきました。交流会最初に、先輩歯科医師として、学生たちの将来を見届けた励ましのお言葉を贈っていただきました。

今日の学生交流会は、コロナ禍以降、久しぶりの対面開催となりました。

～参加学生の声～

- ・仕事に対する価値観、やりがいの見出し方や仕事と育児の両立の大変さ、歯科医師のお金の話など生かすために必要で、かつ実際に経験しないと分からないような知識が多く非常に勉強になった。
- ・同じ仕事をやるにしても、人生の大半を占めるため、せっかくなら楽しみながら仕事をやるのではなく、自分にとって幸せで有意義な時間になりたいなど考えるようになった。
- ・女性だからという性別を理由にして、歯科医師としての自認も家族を持つという夢も諦めたくないと思った。
- ・まずは一人前の歯科医師になることが大切。そのためには知識や技術をしっかり蓄え、一步一步歩んでいきたい。

令和5年度講演会を開催しました

日時: 令和5年10月4日(水) 18:00~19:30

場所: 九州大学病院キャンパス 医学図書館 1階アクティブラーニングスペース

テーマ: 「男性の育児参加: 長崎大学心臓血管外科における育児取得のこころみ」



長崎大学病院 心臓血管外科 教授 三浦 崇 先生



講演会の様子

講師として長崎大学病院心臓血管外科 教授 三浦 崇先生をお迎えし、長崎大学心臓血管外科における男性の育児取得を開始・促進するための取組みを中心にお話いただきました。

ご自身が育児を取得された経験、実際に取得した方々ご家族の感想などを交えて、とても分かりやすく興味深い内容でした。育児取得を促進させるためには、環境や意識を変えること、具体的な方法を作り上げることの重要性を強く感じました。

講演後は、子育て世代の現役医師の方々にお集まりいただき、育児・仕事・家庭について自由に意見を交わす場を設けました。ご夫婦2組を含むパネリスト6名の先生方からの子育て・仕事・家庭のうれしいこと、楽しいこと、苦労していること等の率直なご意見はとても共感を覚える内容でした。

これからも男性の育児取得が普通のこととなり、男女を問わず、すべての人が仕事をし、子育てをする、そして誰もがそのキャリアを続けていくことができる社会になっていくを目指して、活動して参ります。



パネルディスカッションの様子



パネリスト(左より) 三浦 崇先生 友紀 尚子先生 友紀 寛先生



パネリスト(左より) 岡村 圭子先生 岡村 美津先生



パネリスト(左より) 藤原 輝次先生 藤本 真大先生 司会 加藤 聖子先生

～講演会参加者の声～

- ・制度が整わない中にも関わらず、それぞれに工夫されて穴を開けていただき、素晴らしいと思いました。
- ・子育てと仕事、キャリア継続の両立はなかなか難しいものと思っていましたが、本人や周りの考え方を変えていき、両立可能となる方法を見つけて、実践されていることに感動を受けました。
- ・今後、男性の育児取得がスタンダードになってくるとよいと思います。
- ・この社会の大きな変化に対応できない病院や医師に未来はないと強く感じました。男性サイドのお話が聞けて大変良かったです。
- ・実際にご夫妻での働き方もまけて、とても参考になりました。

2024年1月(隔月発行)

### 歯学部でキャリアパスに関する講義を行いました

日時：令和5年11月13日(月)3,4限目

対象：歯学部2年生 53名

講師：九州大学病院口腔画像診断科 副科

きらめきプロジェクト副プログラム責任者  
清水 直弓先生



歯学部2年生を対象に、きらめきプロジェクト副プログラム責任者(歯科部門統括)である清水 直弓先生が、「歯科医師としてのキャリアパスと男女共同参画」をテーマに講義を行いました。講義を聞いた上で、学生たちはグループに分かれて、自分たちの将来の生活について意見を討論を行いました。

#### ～今日の講義を通じて：学生たちの感想～(抜粋)

- ・歯科医師という職業には様々な働き方の選択肢があり、簡単に決めなくていいということも教えておさらいと強く感じた。
- ・「結婚育児とどちらか、キャリアを取るか」どちらかを諦めるのではなくどういったら両立できるかを考えていきたいと思った。
- ・自分のキャリアのために必ずしも歯学に踏み歯科のプロフェッショナルになれるように頑張りたいと思いました。
- ・同級生のみんながどんな未来を描いているかを知って、いろんな人の価値観があって面白い。こんな生き方もあるのかと学ぶことができました。
- ・歯科に拘られず、強い意志もなく進んでいける。今のうちから自分にとってどのようなキャリアライフが理想なのか考えていきたいと思う。
- ・職場の女性だけでなく職場の男性の人にも働きやすい環境を作れるように意識して生活したいと思いました。

#### ◆ イベント開催のお知らせ ◆

#### 令和5年度スタッフ発表会を開催します

日時：令和5年3月6日(水)～8日(金) 18,8日はポスター展示のみ  
会場：病院外来診療棟 2階ホールA

きらめきプロジェクト所属のドクターたちが各々の紹介や1年間の活動をまとめたポスターを会場内に掲示します。劇中ではどなたでもお立ち寄りいただけます。ドクターたちの奮闘裏を是非ご覧ください。



九州大学病院 臨床教育研修センター

きらめきプロジェクト

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1

TEL・FAX：092-642-5203

E-mail：kirameki@fku.kyushu-u.ac.jp

URL：https://www.kirameki.jp/kyushu-u.ac.jp/



# きらめき通信 vol.78

### 年頭のご挨拶を申し上げます。

コロナ禍や世界各地での紛争が続き、2024年こそは幸福な年でありませうと、と新って迎えた新年でしたが、元旦の能登半島地震、その翌日には羽田空港の航空機衝突事故と心痛むことが続いております。この度の災害にて亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族ならびに被災者の皆様には心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。現地で救助、治療、復旧作業などに尽力されている皆様のご苦労もいけばかりかと拝察申し上げますとともに、安全に留まらせてのご活躍をお祈り申し上げます。

私は保健学部看護学分野の宮田潤子と申します。小児医療や産方医学等の学生教育ならびに医学と看護学の双方の視点から考える研究に取り組みとともに、病院では小児外科(特に経腭食道瘻・総胆汁管外反症)と小児胃腸科の診療に従事しております。

きらめきプロジェクトでは副プログラム責任者の任を拝命し久留米大学等の先生方と医師のワークモチベーションに関する研究を行っています。本研究のアンケート調査の際には、九州大学病院および関連施設の先生方に多くのご協力を賜りまして誠にありがとうございました。研究結果は間もなく発表されるかと思っておりますが、医師が、様々な環境で種々のライフイベントを経験しながら、いかに医師としてのワークモチベーションを維持し続けるのか、あるいはそのためにどうすればよいか、大変興味深い問題で、引き続き研究に関わらせていただく所存です。

かく言う私自身、現在、小学生の子どもが二人おりますが、ワークモチベーションを高く維持し続けてこられたほうではございません。高齡での第一子出産後からはほぼワンオペでのマイペースな子どもたちの子育てと仕事の両立を模索してきました。何故も「もう無理だ」と思い詰めましたが、その時々において、医局の先生方に支えていただきました。少しずつ意識をしななければ、という思いと、臨床・研究とも並進向上の姿勢で取り組む周囲の皆様の姿が私自身のワークモチベーションに繋がっていると感じます。きらめきプロジェクトに所属する医師の多くは家庭と仕事の制約があるなかで、ワークモチベーションは高く、非常に前向きで、こちらが刺激をいただいています。生活背景が似た環境にある者として、気軽にご相談いただくなど、何かのお役に立てる機会がありましたら幸いです。



## 日々頑張っている、きらめきプロジェクト所属のドクターを紹介します

卒後14年目の泌尿器科医です。家族構成は夫(内科医)と小学生の息子二人の4人家族です。きらめきプロジェクトには今年度からお世話になっております。勤務は週に2回、外来業務を行っております。卒後6年目のときに大学院進学し、排尿分野の研究を行いました。そのため、大学では泌尿界を担っております。大学院の外来では普段あまり経験することのできない症例を経験することができるため、日々学ばせていただきながら過ごしております。

生活面では、息子たちが保育園時代もバタバタと慌ただしい毎日でしたが、小学校に入学した現在も毎日の生活は同じように慌ただしいです。息子たちも自分のことはある程度自分でできる年にはなりましたが、まだまだ見守りが必要な時期だと感じています。我が家の場合とはくに精神面でのケアが必要だと感じることも多々あります。そのため、仕事も複雑しながら子どもにも時間をかけられるこの働き方は非常にありがたく感じしております。

今後の展望としては、泌尿器科医はまだ女性医師が少ないため、女性患者からのニーズを感じることもあり、それに応えられる医師に成長していきたいです。一度は仕事を辞めようかと思ったこともありますが、このような環境を与えていただいたことに感謝しています。これからも自分にできることは自信をもって、そして日々成長していきたいと思っております。

卒後19年目の歯科医師です。夫と子供2人(中学生の息子、小学生の娘)の4人家族です。2年の研修終了後、出産と子育てのため、長い間歯科から離れておりました。子育てとの両立に不安を感じ、なかなか仕事復帰に踏み切れませんでした。しかしながら、きらめきプロジェクトのことを知人に教えてもらい、これなら子育てと両立できるかもしれないと考え、応募を検討していました。

臨床の経験が少なかったため、昨年度は高齢者歯科・全身管理歯科に医員として1年間所属し、学ばせていただきました。今年度からきらめきプロジェクトに参加させていただいております。現在は、週に2日大学病院に勤務し、歯科診療を行っております。また、週に1日施設を訪問し、口腔ケアや歯科診療を行っております。昨年度よりも大学病院での勤務日数、勤務時間は減りましたが、引き継ぎ多くの経験を積ませていただいております。

家庭においては、子供と向き合う時間も増え、習い事の練習に付き合ったり、ゆっくり話をする時間もできました。家事に費やす時間も増え、充実した毎日を送っております。このような環境を与えてくださっている医局の先生方やきらめきプロジェクトの皆様、家族には大変感謝しております。今後も、日々自己研鑽に努めて参ります。





## 8. 学習プログラム

きらめきプロジェクトでは、主催した講演会等を収録し、九州大学学習支援システムから配信、及びDVDの貸し出しをしています。

忙しい医師・歯科医師が自宅や学外でも視聴し、学ぶことができるようなサポート体制の基盤づくりに取り組んでいます。

### 作成コンテンツ

	タイトル	講師（敬称略）	所属
令和5年度講演会			
講演	「男性の育児参加： 長崎大学心臓血管外科における育休取得のこころみ」	三浦 崇	長崎大学病院 心臓血管外科
令和4年度きらめき講演会			
講演	「育児の共有」	伊藤 瑞子	医療法人 あおばクリニック
令和4年度きらめき学生交流会			
講演	「学生時代に考えておきたいキャリアと子育て」	落合 正行	九州大学環境発達医学研究センター
	「私が働き続け（られ？）る理由」	宮田 潤子	九州大学大学院医学研究院保健学部門
令和3年度きらめき学生交流会			
講演	「歯科医師として働くための未来予想図を描くには？」 （歯学部）	桑鶴 利香	鳥谷歯科医院（きらめきOG）
講演	「自分にプレーキを掛けないで！あなたのキャリアを応援します！」 （医学部）	磯部 紀子	九州大学大学院医学研究院 神経内科学
令和3年度きらめき講演会			
講演	「小分子ユビキチンによる炎症反応制御機構」	池田 史代	九州大学生体防御医学研究所 細胞機能制御学部門炎症制御学分野
きらめき交流会			
講演	「アイデア脳と五択脳世界の医師の働き方についてきてみよう！」	齋藤 アンネ 優子	順天堂大学医学部附属浦安病院 放射線科

（きらめきプロジェクト主催分 抜粋）

## 9. スタッフミーティング議事録

きらめきプロジェクトでは、所属スタッフが定期的集まり、近況報告や情報・意見交換を行っています。

### 【第94回スタッフミーティング】

日 時：令和5年6月5日（月）12:00～ Web開催

1. 4月新規採用者 自己紹介
2. 今年度の行事について
  - ジェンダー学講義日程  
(医学部) 5月8日(月) 2時限目 樗木 晶子先生 / 3時限目 加藤 聖子先生  
(歯学部) 10月30日(月) 午後予定 清水 真弓先生
  - 性差医学入門講義  
5月9日(火) 3時限目 宮田 潤子先生 (きらめき副プログラム責任者)  
4時限目 久保 真先生 (乳腺外科 診療科長)
  - 医学部学生交流会  
5月8日(月) 12:00～12:55 ウェストウィング棟 臨床小講堂2  
演者：福岡県医師会 副会長 一宮 仁先生、常任理事 戸次 鎮史先生
  - 歯学部学生交流会：歯学部2年生対象の歯学総論2内(秋学期)  
開催日時：10月23日(月) 午後予定
  - 令和5年度講演会
  - 令和5年度スタッフ発表会(3月開催予定)  
スタッフみなさんの各イベントへのご参加をお願いいたします。  
また、イベント担当の方にはご協力をよろしくお願いいたします。
3. HIS 端末(カルテ入力)と実績について
4. 周術期口腔ケアセンターでの勤務について(歯科)
  - センター長 和田尚久先生より
  - 清水先生より
5. 記念撮影
6. きらめき通信について  
所属スタッフには所属中、原稿(400～600字程度)を書いております。  
自己紹介もかねて、きらめきに入られた経緯や入ってからの生活などをご自由に書いてください。  
※院内ユーザーメールにて一斉送信・HP掲載・外来 2階、生協に設置
7. スタッフへの連絡・報告事項
  - ◆事務局からの照会事項等は、基本的にメールで連絡いたします。  
▽切が早いものなどがありますので、こまめなメールチェックをお願いいたします。

- ◆出勤簿の管理はきらめきで行います。
- ◆休暇を取得する時はきらめきにもご連絡願います。  
年休のほか理由によっては特別休暇、子の看護休暇等となることがあります。それぞれに対象や条件がありますので事務局までお問い合わせください。
- ◆令和4年度スタッフ発表会 報告
- ◆令和4年度 年度末アンケート結果 報告
- ◆令和5年度きらめきプロジェクト秋採用について

#### 【第95回スタッフミーティング議事録】

日 時：令和5年8月28日（月）12:00～ Web 開催

##### 1. 今年度の行事について

###### ●令和5年度講演会

- ・開催日時：10月4日（水）18:00～19:30
- ・会 場：医学図書館 1階アクティブラーニングルーム
- ・講 師：長崎大学病院心臓血管外科 教授 三浦 崇先生
- ・パネルディスカッション演者：
  - 木村病院 藤原 謙次先生（九大病院 第一外科）
  - 宗像いきまるクリニック 院長 塚本 真大先生（きらめき OB）
  - 九大病院 産科婦人科 医師
- ・託 児：講演会開催時間中（前後30分含む）に医学図書館内にて無料で行う。  
事前申込必須

###### ●歯学部学生交流会：歯学部2年生対象の歯学総論2内

- ・開催日時：10月23日（月）3,4時限目
- ・対面開催：歯学臨床研究棟2階 201講義室（状況によっては変更の可能性あり）
- ・講 師：桑鶴 利香先生

###### ●ジェンダー学講義（歯学部）：歯学部2年生対象の歯学総論2内

- ・開催日時：11月13日（月）3,4時限目
- ・対面開催：歯学臨床研究棟2階 201講義室（状況によっては変更の可能性あり）
- ・講 師：清水 真弓先生

##### 2. 令和5年度きらめきプロジェクト秋募集の結果

選考日（面接）：7月5日（水）  
勤務開始日：10月2日（月）  
採用決定者：医師1名 歯科医師1名

##### 3. 新規採用者 自己紹介

##### 4. スタッフへの連絡・報告事項

- ◆第三内科 下川先生が7月末に退職されました。
- ◆第三内科 平田先生が8月末に退職されます。
- ◆職員基本メールアドレスの定期的なチェックをお願いします。
- ◆職員研修の受講をお願いします。

## 【第96回スタッフミーティング議事録】

日 時：令和5年11月29日（水）12:00～ Web開催

### 1. 開催報告

#### ●令和5年度講演会

- ・開催日時：10月4日（水）18:00～19:30
- ・会 場：医学図書館 1階アクティブラーニングルーム
- ・講 師：長崎大学病院心臓血管外科 教授 三浦 崇先生
- ・パネリスト：藤原 謙次先生、塚本 真大先生、河村 英彦先生、河村 圭子先生、友延 寛先生、友延 尚子先生

※共催：九大医師会

#### ●歯学部学生交流会：歯学部2年生対象の歯学総論2内

- ・開催日時：10月23日（月）3,4時限目
  - ・対面開催：歯学臨床研究棟2階 201講義室
  - ・講 師：桑鶴 利香先生
- ※後援：九大歯学部同窓会

#### ●ジェンダー学講義（歯学部）：歯学部2年生対象の歯学総論2内

- ・開催日時：11月13日（月）3,4時限目
- ・対面開催：歯学臨床研究棟2階 201講義室
- ・講 師：清水 真弓先生

### 2. スタッフ発表会について

#### ■スタッフ発表会とは（毎年3月に開催）

『きらめきに所属後の自身の研究の成果、家庭生活の変化など』一般の方々にもきらめきのことが理解いただけるようなポスターを作成し、本院2階のギャラリーに展示。

日 時：令和5年3月6日（水）～8日（金）

初日 11:00～16:00 ※スタッフは原則この日に参加

2、3日目 終日（ポスター掲示のみ）

場 所：外来診療棟2階ギャラリー（12月下旬頃正式決定）

#### 【ポスター作成について】

12月中旬ごろまでに、改めて作成依頼メールを送付します。

提出期限は2月上旬頃を予定。

#### 【お手伝いシフトについて】

スタッフ発表会の準備、受付、片づけはスタッフ全員で手分けして行います。

下記の中から、1回お手伝いをお願いします。

○開催前日 午後：準備（ポスター掲示、会場設営）

○開催初日 午前～午後：受付（シフトを組んで、1時間程度ずつ対応）

○開催最終日 午後：後片付け

### 3. 令和6年度医師・歯科医師募集について

応募締切：令和5年12月22日（金）

面接日：令和6年1月10日（水）

面接場所：臨床研究棟共通棟 ファカルティルーム（2）

※12月4日（月）に事前説明会を行います。

### 4. スタッフへの連絡・報告事項

◆来年度について

◆継続希望の先生方へ

◆今年度末での退職を予定されている先生方へ

◆歯内治療科 深見先生が10月末で退職されました。

### 【第97回スタッフミーティング議事録】

日時：令和6年3月11日（月）12:00～ Web開催

#### 1 令和6年度医師・歯科医師募集の結果報告（添付資料：所属内訳）

所属数 20名（新規 5名、継続 15名）

・医師 14名（新規 4名、継続 10名）

・歯科医師 6名（新規 1名、継続 5名）

#### 2 令和5年度スタッフ発表会について

日時：令和6年3月6日（水）～8日（金）

場所：外来診療棟2階ギャラリー

スタッフの先生方、ポスター作成、運営へのご協力ありがとうございました。

先生方のポスターは年度報告書に掲載いたします。

#### 3 来年度講義等日程について

スタッフの先生方にはイベントへの参加はもとより、運営へのご協力もお願いします。

●ジェンダー学講義＜講義棟2階 臨床小講堂2＞

4月15日（月）2時限目 檜木先生、3時限目 加藤先生

●医学部学生交流会＜講義棟2階 臨床小講堂2＞（添付資料：周知チラシ）

4月15日（月）12:00～13:00の間に開催

福岡県医師会との共催

●性差医学入門講義＜総合研究棟1階 105セミナー室＞

6月18日（火）4時限目 宮田先生

7月2日（火）4時限目 久保 真先生（九州大学病院乳腺外科 診療科長）

●歯学部ジェンダー学講義（例年10月以降に実施）

●歯学部学生交流会（例年10月以降に実施）

●講演会（例年9～10月頃実施）

- 4 スタッフの先生方のイベント等運営へのご協力（担当割）依頼について  
今年度も、スタッフの先生方にはきらめき主催のイベント運営にご協力をいただき、ありがとうございました。  
後日、来年度講演会・医学部学生交流会・歯学部学生交流会の担当割を行います。先生方のご希望をメールで伺いますのでご回答をお願いいたします。
- 5 福岡県病児保育支援システムのご紹介（添付資料：病児保育なび チラシ）  
令和5年4月から、福岡県による病児保育利用無償化が始まっています。  
すでにご利用の方もいらっしゃると思いますが、改めてご紹介いたします。  
利用される時に事前登録が必要な場合もあります。お時間のある時に登録されておくと  
いざという時に安心かもしれません。
- 6 令和5年の業績等ご紹介
- ・緒方先生（臨床教育研修センター）日本遺伝子細胞治療学会 認定医取得
  - ・西原先生（心療内科）日本心身医学会・日本心療内科学会 指導医取得  
原著（欧文筆頭）1編
  - ・大和先生（第二内科）循環器学会 専門医取得
  - ・福元先生（第三内科）学術論文2編、国内学会発表2、  
日本臨床内分秘病理学会研究賞最優秀賞、  
学術誌における解説・総説1
  - ・太田先生（歯科麻酔科）症例報告1、シンポジウム3
- 認定医・専門医等の取得や業績等ありましたら、ご連絡ください。
- 7 その他
- ・3月末に4名の先生方が退職されます。  
安部先生（小児科）、馬越先生（第三内科）、  
竹下先生（顔面口腔外科）、橋本先生（眼科）  
可能であれば、きらめき退職後も認定医・専門医等の取得や常勤での勤務開始など  
ご連絡いただけると幸いです。
  - ・年度末アンケートを実施します。ご協力をお願いいたします。
  - ・きらめき事務局からの連絡は、主にメールで行います。きらめきからのメールタイトル  
“【きらめき】”で始めていますので、日頃からメールチェックをお願いします。
  - ・大学、病院が行う各種研修は必ず受講してください。ご案内する研修には法令に定めら  
れているものや病院評価に係わるもの等です。また、研修ごとに「受講完了」までのプ  
ロセスが異なりますので、必ず受講方法を確認してください。

## 10. 令和5年度秋/令和6年度 採用募集要項

### 令和5年度 九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト 非常勤医師・非常勤歯科医師 秋募集のお知らせ

きらめきプロジェクトでは、魅力ある職場での生涯現役をめざして、医師・歯科医師の臨床現場定着及び復帰支援を進めています。育児、介護、自身の病気などのために常勤での勤務が困難であるが、専門医取得資格の継続、アカデミックキャリアの継続などを目的として非常勤で九州大学病院に勤務することを希望される医師・歯科医師を、性別を問わず募集します。

#### ○求める人材

九州大学病院でご自身の専門性を生かし、非常勤の医師及び歯科医師として勤務することを希望する方

#### ○職務内容

- ・ 医 師：ご自身の専門とされる診療科と相談の上、職務内容は決定(主に外来診療、検査業務)
- ・ 歯科医師：所属する診療科での診療及び周術期口腔ケアセンターでの予防外来診療
- ・ 共通職務：きらめきプロジェクトのイベントなど運營業務への協力

#### ○募集要項

- ・ 募集予定人数 2名(先着順。募集予定数になり次第、応募受付を終了します。)
- ・ 処遇

【身 分】学術研究員(非常勤)

【勤務日数・勤務時間】応相談(週4時間～12時間まで、ただし1日実働6時間まで/休憩12:00～13:00)

【雇用期限】年度末ごとの更新、ただし3年を上限とする

【給 与】大学の規定による

【福利厚生】通勤手当支給(大学の規定による額) ※社会保険は加入対象外

#### ○応募資格

育児・自身の病気・介護をされている医師及び歯科医師

#### ○出願書類 ※不備のないようにお願いいたします。

- ・ 履歴書(3cm×4cm 写真貼付、学歴は高校卒業以上を必ず記入すること)、業績目録等
- ・ 今後の抱負『今後、どういうキャリアを目指しているか+(育児・介護、病気などの現在の状況)』  
(400字 A4用紙1枚程度)
- ・ 最終学歴の証明書  
(いずれかを提出→学位記(写:A4サイズ)・最終学歴の証明書(原本)・卒業修了証書(写:A4サイズ))
- ・ 博士号をお持ちの場合、博士課程の学位記(写:A4サイズ) 又は 学位授与証明書(原本)
- ・ 保険医登録票(写)
- ・ 医師免許証(写:A4サイズ)
- 【育児をされている方】
- ・ 母子健康手帳取得者および小学校6年生までの子供をもつ医師、歯科医師  
必要書類：母子健康手帳(写)と子供の年齢を証明できるもの(健康保険証や住民票の写し等)

**【介護をされている方】**

- ・ 家族（配偶者、父、母、兄弟、子供など）に要介護者、要看病者がいる医師、歯科医師  
必要書類：市町村による要介護認定等を証明できるもの（介護保険被保険者証の写し等）

**【ご自身の病気】**

必要書類：疾病状況を証明、あるいは説明できるもの（医師の診断書等）

○出願締切

2023年 6月30日（金） 必着

○選考方法

面接を行います。

○選考日（面接）

2023年 7月 5日（水）午後予定

○勤務開始日

2023年10月2日（月）以降

○お問い合わせ・書類提出先

〒812-8582

福岡市東区馬出3-1-1

九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト 宛

TEL/FAX：（092）642-5203

E-mail：kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp

**【令和5年度秋九州大学病院きらめきプロジェクト スタッフ募集(医科・歯科)の結果報告】**

○面接日：2023年7月5日（水）

○面接官：加藤 聖子（プログラム責任者）

清水 真弓（副プログラム責任者）

大山 順子（副プログラム責任者）

○応募人数：医師 2名 歯科医師 1名

○採用人数：医師 2名 歯科医師 1名

**令和6年度 九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト  
非常勤医師・非常勤歯科医師募集のお知らせ**

きらめきプロジェクトでは、魅力ある職場での生涯現役をめざして、医師・歯科医師の臨床現場定着及び復帰支援を進めています。育児、介護、自身の病気などのために常勤での勤務が困難であるが、専門医取得資格の継続、アカデミックキャリアの継続などを目的として非常勤で九州大学病院に勤務することを希望される医師・歯科医師を、性別を問わず募集します。

○求める人材

九州大学病院でご自身の専門性を生かし、非常勤の医師及び歯科医師として勤務することを希望する方

○職務内容

・ 医 師：ご自身の専門とされる診療科と相談の上、職務内容は決定(主に外来診療、検査業務)

・ 歯科医師：所属する診療科での診療及び周術期口腔ケアセンターでの予防外来診療

・ 共通職務：きらめきプロジェクトのイベントなど運営業務への協力

○募集要項

- ・募集予定人数 3～4名
- ・処遇

【身分】学術研究員（非常勤）

【勤務日数・勤務時間】応相談（週4時間～12時間まで、ただし1日実働6時間まで/  
休憩12：00～13：00）

【雇用期限】年度末ごとの更新、ただし3年を上限とする

【給与】大学の規定による

【福利厚生】通勤手当支給（大学の規定による額） ※社会保険は加入対象外

○応募資格

育児・自身の病気・介護をされている医師及び歯科医師

○出願書類 ※不備のないようにお願いいたします。

- ・履歴書（3cm×4cm 写真貼付、学歴は高校卒業以上を必ず記入すること）
- ・業績目録等
- ・今後の抱負『今後、どういうキャリアを目指しているか+（育児・介護、病気などの現在の状況）』  
(400字 A4用紙1枚程度)
- ・最終学歴の証明書（いずれかを提出→ 学位記(写：A4サイズ)・最終学歴の証明書(原本)・  
卒業修了証書(写：A4サイズ))
- ・博士号をお持ちの場合、博士課程の学位記(写：A4サイズ) 又は 学位授与証明書(原本)
- ・保険医登録票（写）
- ・医師免許証（写：A4サイズ）

【育児をされている方】

- ・母子健康手帳取得者および小学校6年生までの子供をもつ医師、歯科医師  
必要書類：母子健康手帳(写)と子供の年齢を証明できるもの(健康保険証や住民票の写し等)

【介護をされている方】

- ・家族（配偶者、父、母、兄弟、子供など）に要介護者、要看病者がいる医師、歯科医師  
必要書類：市町村による要介護認定等を証明できるもの（介護保険被保険者証の写し等）

○選考日（面接）

2024年1月10日（水）午前 の予定

○勤務開始日

2024年4月1日（月）以降

○お問い合わせ・書類提出先

〒812-8582

福岡市東区馬出3-1-1

九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト 宛

TEL/FAX：(092) 642-5203

E-mail：kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp

【令和6年度九州大学病院きらめきプロジェクト スタッフ募集(医科・歯科)の結果報告】

○面接日：2024年1月10日（水）

○面接官：加藤 聖子（プログラム責任者）

宮田 潤子（副プログラム責任者）

清水 真弓（副プログラム責任者）

大山 順子（副プログラム責任者）

○応募人数：医師 4名 歯科医師 1名

○採用人数：医師 4名 歯科医師 1名

## 編集後記

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が感染法上の5類になりました。

現在でも院内ではマスクを着用する等、すべてがコロナ禍前に戻ったわけではありませんが、本プロジェクトでも対面での活動ができるようになりました。

対面形式でのイベントではその場の雰囲気を感じられ、より多くの貴重な経験や学びを得ることができたのではないかと思います。しかし振り返ってみると、オンライン形式で遠隔でつながることができる等、厳しかったコロナ禍でも得られたものはあります。

コロナ禍を経験したからこそ得ることができた、より柔軟な対応力でその時々状況に合わせて活動してまいります。

今後も、医療に携わっている方々が幸せに働き続けられること、また医療に携わることを目標とする方々が安心して将来を考えることができることを目指していきたいと考えております。

今後とも、皆様のご支援ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

きらめきプロジェクト事務局 西 元子

---

## 令和5年度 九州大学病院 きらめきプロジェクト報告書

発行 九州大学病院臨床教育研修センター きらめきプロジェクト  
〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1番1号  
TEL/FAX : 092-642-5203  
E-mail : kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp  
HP : <https://www.kiramekipj.kyushu-u.ac.jp/>

編集 西 元子

印刷 株式会社ミドリ印刷  
〒812-0857 福岡市博多区西月隈1丁目2番11号  
TEL : 092-441-6747 FAX : 092-473-1275  
HP : <http://www.midori-p.com/>

---



九州大学病院  
KYUSHU UNIVERSITY HOSPITAL

発行 九州大学病院臨床教育研修センター きらめきプロジェクト  
TEL/FAX:092-642-5203  
E-mail:kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp  
HP:<https://www.kiramekipj.kyushu-u.ac.jp/>

